



2014.2.20-2.27

第5回台南市青少年訪問団

報 告 書

主催：公益財団法人 仙台国際交流協会



♥ We love Tainan
我們愛台南

目次

はじめに.....	1
実施概要.....	2
団員名簿.....	3
行程表.....	4
活動班の紹介.....	6
事前研修会レポート.....	8
台湾の1週間.....	10
ホームステイ体験.....	14
台湾の食べ物 食レポ.....	16
みんなの感想.....	19
台湾からのメッセージ.....	38
同行者より.....	40
フォトギャラリー.....	42
編集後記.....	46



はじめに

第5回の台南市青少年訪問団は、大学生26名及び同行職員2名が参加し、2014年2月に実施されました。

出発の数日前から降り続いた大雪で、スーツケースを成田空港に送れなくなったり、出発前に体調を崩す団員も出るなど心配しましたが、なんとか無事全員そろって成田空港を飛び立つことができました。台南では、第1回からお世話になっている奇美グループのみなさんや、学生サポーターのみなさんに迎えられ、念入りに準備していただいた様々なスケジュールを精力的にこなしました。

今回の訪問の特徴は、初のホームスティと高雄市へのデイトリップです。日本語や英語を勉強している大学生などがホストファミリーとなって、台湾の家庭生活を体験させていただきました。同じ世代のホストファミリーと一緒に過ごした1泊2日は、団員それぞれにとって忘れられない思い出となったようです。

また、前回から始まった樹谷生活科学館前での日本文化PRイベントを今回も実施しました。高雄市の専門学校で日本語を学ぶ学生達も応援に来てくれて、日本文化体験ブースや震災復興の報告ブースなど、多くの来場者で賑わいました。訪問団の目的の一つに、台南市民の皆様に感謝の気持ちや復興の現状を伝えるということがあり、こうした場を設定していただいたことに感謝しています。

桜が満開の先住民ブヌン(布農)族の村を訪問し、日本統治時代を含む歴史についての講義を受けたり、夜にはブヌン族の芸術として知られている8部和音の合唱を披露していただきました。翌日には近くの小学校を訪れ、子ども達と一緒にミニ運動会に参加しました。

奇美グループの方々が、季節等を考慮しながら、毎回、内容や訪問先を少しずつ変え、訪問団の滞在が一層充実したものとなるよう、ご配慮いただいていることに改めて感謝申し上げます。

最後になりましたが、今回も、事業実施にあたりご尽力いただいた奇美グループや財団法人樹谷文化基金会の皆様、お世話いただいた学生サポーターの皆様、ホストファミリーの皆様、その他、多くの方々に心から感謝申し上げます。

平成26年11月

公益財団法人仙台国際交流協会

台南市青少年訪問団について

仙台市と友好交流促進協定を結ぶ台湾の台南市では、東日本大震災の直後から、「送愛到仙台(仙台に愛を送ろう)」の名のもとに活発な募金活動が行われ、また、台南市に本拠地を置く奇美グループがスポンサーとなり、「復興を担う人づくりこそ経済的支援にも勝る最も確かな支援である」という考えのもと、3年間で約300人の仙台の青少年を台南に招待するプロジェクトが生まれました。

これを受け、仙台国際交流協会では平成24年2月の第1回訪問団派遣を皮切りに、4回の派遣で計121名の学生が台南市を訪問しました。現地滞在中は、奇美グループ職員の方々や、日本語を学ぶ台湾人学生のサポートを受けて、様々な交流事業に参加しています。

実 施 概 要

仙台市と交流促進協定を結ぶ台南市に青少年を派遣し、現地の青少年との交流や台南市内の見学、日本文化の紹介などを通して、異文化理解を深める機会とする。また、震災後にいただいた支援への感謝や、現在の仙台の状況を伝える機会とする。

1. 訪 問 先 台湾 台南市および近郊
2. 実施時期 2014 年 2 月 20 日(木)～2 月 27 日(木) 7 泊 8 日
3. 主 催 公益財団法人仙台国際交流協会
4. 協 力 仙台市
5. 後 援 仙・台友好交流促進協会
6. 参加人数 青少年 26 名、同行者 2 名
7. 募集対象 仙台市内にお住まいか通学する 18 歳～22 歳の方(大学・専門学生等、年齢は平成 25 年 4 月 2 日現在)で下記の条件を全て満たす方
 1. 学生であること
 2. 心身ともに健康であること
 3. 日本国籍を有すること
 4. 国際交流、異文化理解に関心があり、訪問団の趣旨を理解・賛同し、団体行動に参加可能であること
 5. 定められた日程・旅行条件で参加できること
 6. 東日本大震災での経験を踏まえ、台湾の方々に仙台の元気や、感謝の想いを伝えることができること
 7. 事前・事後研修(全4回程度)に参加できること
 8. 過去に仙台国際交流協会が主催した海外派遣事業に参加していないこと
 9. 未成年者の場合は、保護者の承諾が得られること

1. 事前研修

- 第 1 回 2014 年 1 月 11 日(土): 訪問団概要説明、仙台市と台南市の関係について
第 2 回 2014 年 1 月 25 日(土): 「台湾の歴史と文化」の講義、高雄について、中国語レッスン
第 3 回 2014 年 2 月 8 日(土): 過去団員の経験談、日本文化紹介・交流会の準備、旅程確認

2. 事後研修

- 2014 年 3 月 8 日(土): 訪問団の振り返り(グループワーク、感想発表)、報告書作成について



参加団員名簿

No	氏名	ふりがな	性別	学校名	学年
1	赤間 汐理	あかま しおり	女	東北学院大学	2
2	阿部 耕大	あべ こうだい	男	東北大学	1
3	伊丹 昇平	いたみ しょうへい	男	東北福祉大学	3
4	岩原 春香	いわはら はるか	女	仙台高等専門学校	4
5	植野 蒼太	うえの そうた	男	東北工業大学	2
6	遠藤 裕香	えんどう ゆか	女	宮城教育大学	3
7	大土 将皓 (団長)	おおど まさひろ	男	東北文化学園大学	4
8	岡田 紗織 (副団長)	おかだ さおり	女	宮城大学	1
9	加藤 厚菜	かとう あつな	女	東北学院大学	2
10	加藤 郁美	かとう いくみ	女	宮城教育大学	3
11	加藤 光	かとう ひかる	男	仙台大学	1
12	鴻野 美和子	こうの みわこ	女	宮城教育大学	3
13	今 絢子	こん あやこ	女	東北福祉大学	1
14	齋藤 睦	さいとう むつみ	男	東北大学	2
15	佐々木 明	ささき さやか	女	宮城学院女子大学	1
16	庄司 晴香	しょうじ はるか	女	尚絅学院大学	1
17	菅原 恭平 (副団長)	すがわら きょうへい	男	宮城教育大学	2
18	手塚 大介	てづか だいすけ	男	東北薬科大学	4
19	豊田 亜美	とよた つぐみ	女	東北学院大学	2
20	野笹 友	のざさ ゆう	男	東北大学	2
21	長谷川 侑美	はせがわ ゆみ	女	宮城教育大学	3
22	埴 綾佳	はなわ あやか	女	宮城教育大学	3
23	古市 悠夏	ふるいち ゆか	女	東北福祉大学	2
24	八木沼 賢悟	やぎぬま けんご	男	宮城教育大学	2
25	八巻 幸子	やまき さちこ	女	東北学院大学	1
26	渡邊 加純	わたなべ かすみ	女	仙台白百合女子大学	2

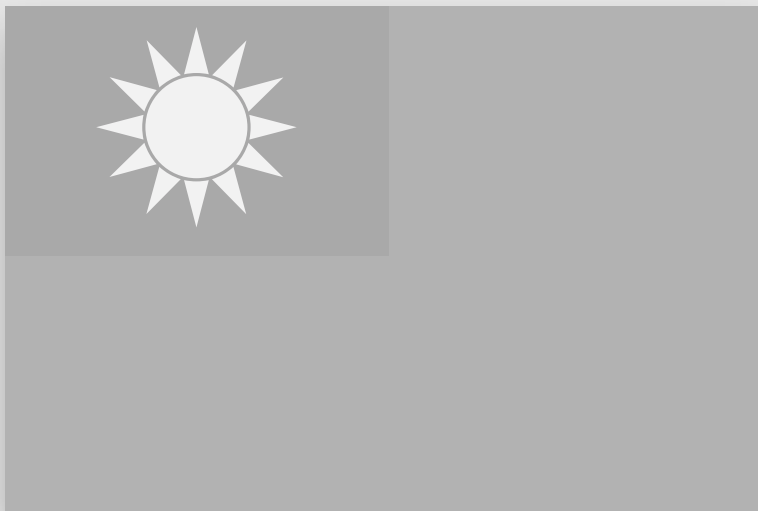
男:10人、女16人、13校

■同行職員

1	須藤 伸子	すどう のぶこ	女	(公財) 仙台国際交流協会
2	川合 朋子	かわあい ともし	女	(公財) 仙台国際交流協会

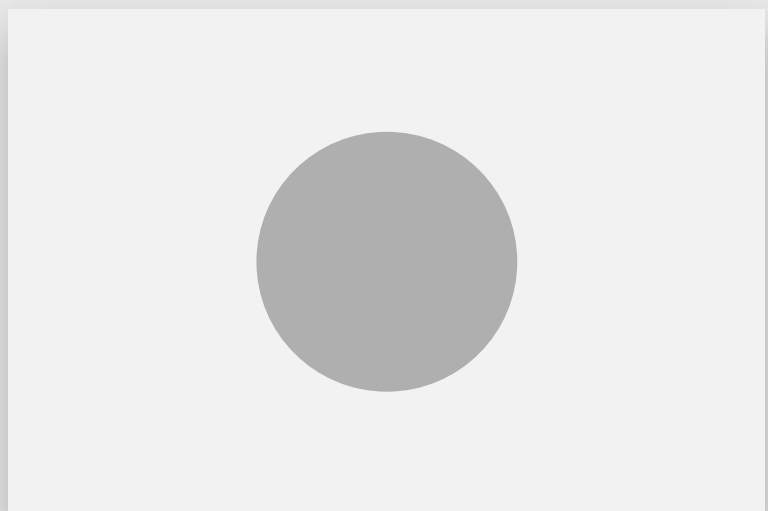
行程表

日次	日にち	都市	移動手段	時間	行程	食事	宿泊先
1	2/20(木)	仙台	仙台駅	7:15	仙台駅2階 新幹線南口 集合	各自	樹谷会館
		仙台-東京	新幹線 やまびこ208	7:41発 - 9:35着	仙台駅→東京駅	○	
		東京-成田	成田エクスプレス21	10:03発 - 10:54着	東京駅→成田空港第2ターミナル		
		成田-台北	飛行機 GE605	13:20発 - 16:20着	成田空港→桃園空港(台北)		
		台北-台南	台湾新幹線		桃園駅→台南駅		
		樹谷園	専用バス	19:30頃着	台南駅→樹谷会館	○	
2	2/21(金)	台南市	専用バス	8:00-8:30	朝食(樹谷会館)	○	樹谷会館
				8:30-10:00	学生同士の交流&樹谷の案内	×	
				10:00-10:30	移動		
				10:30-12:00	古跡-安平古堡		
				12:00-13:00	昼食 安平老街(台湾式屋台)		
				13:00-13:30	移動		
				13:30-15:20	台湾茶道体験		
				15:20-15:30	移動		
				15:30-17:30	古跡-赤崁楼 or 孔子廟		
				17:30-17:40	夕食(ショーロンボー)	○	
18:40-19:40	移動						
19:40-22:00	台日交流パーティー						
3	2/22(土)	台南市	専用バス	7:30-8:00	朝食(樹谷会館)	○	ホームステイ(高雄)
				8:00-9:00	移動	○	
				9:00-10:00	烏山頭ダム		
				10:00-10:30	移動		
				10:30-11:00	菁寮老店巡り		
				11:00-12:00	昼食 粽		
				12:00-13:00	移動		
				高雄市	電車	13:00-14:00	
		14:00-16:30	仙台PRイベント				
				16:30-18:30	高雄へ移動	ホームステイ	
4	2/23(日)	高雄市	各自	朝	ホームステイ先	×	樹谷会館
				昼	高雄で自由行動(自分で計画)	×	
		台南市	電車	17:00-19:00	高雄駅集合 台南へ移動	×	
			専用バス	19:00-21:30	花園夜市、夕食		
						21:30-22:30	
5	2/24(月)	台南市	専用バス	8:00-8:30	朝食(樹谷会館)	○	先住民の村
		南投県		8:30-12:00	移動	○	
				12:00-13:30	昼食(先住民のオリジナル料理)	○	
						13:30-18:00	
6	2/25(火)	嘉義市	専用バス	18:00-19:30	夕食(先住民のオリジナル料理)	○	
				19:30-21:30	先住民パーティー		
		台南市		8:30-9:00	朝食		○
				9:00-11:30	先住民生活体験		
				11:30-13:00	昼食(先住民オリジナル料理)		
7	2/26(水)	台南市	専用バス	13:00-18:00	移動、樹谷会館着後自由	○	
				18:00-19:30	夕食(樹谷会館)		
				19:30-21:00	活動の感想交流・感謝カードを作る		
				7:30-7:40	移動		○
7:40-10:00	大洲地区 朝食DIY						
10:00-10:30	移動						
10:30-11:30	海						
8	2/27(木)	台北市	台湾新幹線 専用バス	11:30-13:00	移動、シャワー・着替え	○	
				13:00-14:30	昼食(樹谷会館)、交流会準備		
				14:30-17:00	お別れ交流会		
				17:00-19:00	夕食(樹谷会館)		
				20:49-22:14	移動	○	
9	2/28(金)	台南市	専用バス	桃園駅→台南駅	移動	○	
				台南駅→桃園駅			
				桃園駅→高雄駅			
				高雄駅→台南駅			



台南市青少年訪問団 報告書

活動班の紹介



一緒に活動した 愉快的仲間たち♪



グレイス

1班

顔もキャラも濃すぎな1班！

サポーター⇒⇒

日本語は2チャンで勉強♡
天然ボーイせんちゃん！

葉乃萱（せんちゃん）・大土将皓（団長）
岡田紗織（そーちゃん）・加藤厚菜（つな）
今絢子（あやこ）・菅原恭平（きょんきょん）



2班

Hi, guys !
We are crazy,crazy,crazy な2班!!



謝孟堯（はるみ）・伊丹昇平（いたみ）
岩原春香（いわはる）・埜綾佳（あーちゃん）
八木沼賢悟（けんちゃん）・八巻幸子（さっちゃん）

よく分かんない！が口癖だけど、
1番2班のこと分かってる、
天然 girl はるみ♡♡

←←サポーター



カンさん

3班

モグモグ俊敏ぶたさんず！

サポーター⇒⇒

かわいくて癒し系だけど、
食いしん坊で酒豪という
ギャップが魅力♡
3班の優しいお姉さん！

侯于雯（ブンブン）・植野蒼太（うへのっち）
遠藤裕香（ゆかにゃん）・佐々木明（さあーか）
野笹友（のざさん）





はくりん

少食、偏食、雑食の共演/ 二度と忘れないラベンダーアイス

4班



陳昱如（あさこ）・阿部耕大（こうだい）
加藤郁美（いくみん）・手塚大介（だいちゃん）
古市悠夏（いっちー）

小さくて細いのに勉強熱心！！
そして、いつも、笑顔、朝子♡

←←サポーター

5班

マイペースといえは！！ ちーむ・ふわほわ♡

サポーター⇒⇒
天使の笑顔のいたずらボーイ♡

林忠宏（ヒロ）・鴻野美和子（みっちゃん）
齋藤睦（むつみ）・庄司晴香（しょうはる）
豊田亜美（つぐみん）



ジェyson・須藤さん
川合さん・俊さん

自由人の集まりだけど、 やまとの日本語の理解力と やまとへの愛は どこの班にも負けません！！

6班



陳振庭（やまと）・赤間汐理（しおりん）
加藤光（ひかる）・長谷川侑美（ゆみ）
渡邊加純（かすみん）

あまり美味しくない台湾料理を
オススメしてくる、
ガンダム大好きなやまと♡

←←サポーター



出発までの準備

台南市青少年訪問団では、出発前に3回事前研修をして台湾に関する知識を深めたり、グループワークを通して団員同士のチームワークを高めたりします。帰国後も感想や体験を共有するために事後研修会を行っています。

団員同士、初の顔合わせとなったこの日は、みんなちょっと緊張気味。仙台市の方から、今までの仙台と台南の交流経緯について紹介いただき、仙・台友好交流促進協会の飯岡氏からは日本のことを自分の言葉で伝えられるように準備すること、とお話をいただきました。後半は、仙台在住の留学生たちから国際交流のアドバイスや、初めて日本に来た時の経験談や苦労話などを聞きました。



講師：小林 康一先生

2回目の研修では、宮城県仙台第二高等学校の小林先生に、台湾の歴史や社会について講義していただきました。

メンバーは、久しぶりに聞く世界史用語に苦笑いしながらも、真剣に聞き入っていました。後半は、仙台に留学中の台湾留学生、高雄出身の王尹容さんと、台南にある大学に在学中の王昱強さんから台湾のアドバイスと、台湾語のワンポイントレッスンをしてもらいました。次回までの宿題は、高雄での自由行動ルートを考えてくること。



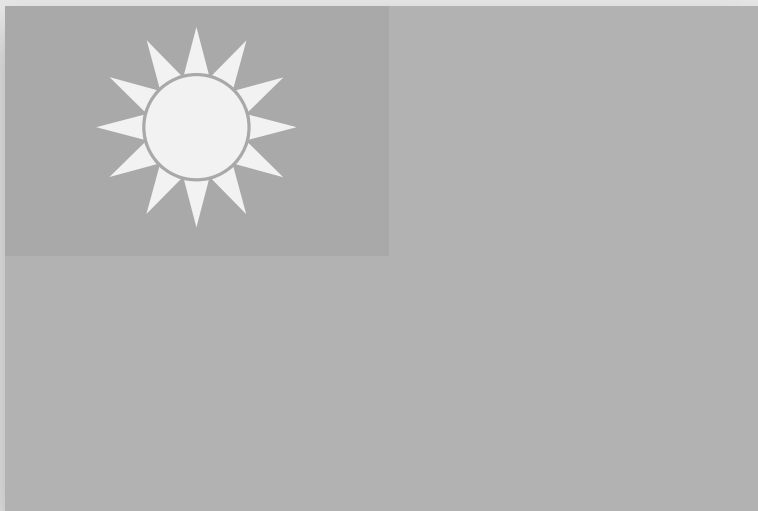
講師左：王 尹容氏
講師右：王 昱強氏



3回目の研修では、過去の訪問団に参加した団員を囲んで座談会。行く前に準備すべきことや、帰ってきた後の自分の変化など、訪問団を通して学んだことについてお話しいただきました。

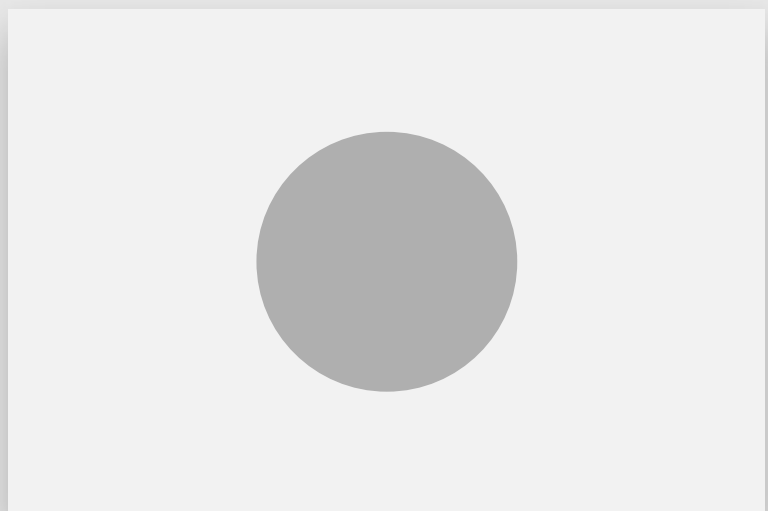
その他、グループに分かれて、現地交流会やイベントの企画準備をしたり、全員で歌の練習をしたり、だんだん出発の実感がわいてきました。団長、副団長の選出も無事に終わり、団長は推薦で大土将皓さん、副団長には菅原恭平さんと岡田紗織さんが選ばれました。慌ただしく旅程の最終確認をした後は、現地で訪問する予定の烏山頭ダムに関する映画「パッテンライ」の鑑賞をして、予習もバッチリ★





台南市青少年訪問団 報告書

台湾の1週間



現地プログラム 1週間の様子 2014年2/20-27

1日目 2/20 (木)	『いざ、出発!』 朝早くにもかかわらず、遅刻者なしで全員元気に仙台駅に集合。(実は元気じゃない人もいたけど・笑) 出発式を行い、成田空港へ。これから、どんな1週間になるのか期待と不安を抱きながら、夜には訪問団の拠点になる樹谷会館(台南)に到着。 これからどんな出会いがあるかな・・・	
2日目 2/21 (金)	『台湾生活初日! 古跡めぐり in “台湾の京都”台南』 ○台湾学生サポーターとの対面 仮面! ?を被って登場したのが、我ら訪問団に1週間同行してくれるサポーター。日本語は通じるのか、仲良くなれるのか心配でしたが、みんな面白いキャラで一安心。各班に1人ずつサポーターがつき、班ごとに自己紹介をして交流。まだお互いに緊張していて、打ち解けるにはもう少し時間が必要かな・・・ ○安平古堡 1624年に、オランダ人によって建てられたお城でしたが、鄭成功^{ていせいこう}がオランダ軍を破り、居住地としていたそうです。鄭成功の遺品や戦争で使われていた大砲や防壁、当時の街並みのパノラマがあり、その時代が感じられる場所でした。 ○台湾式茶道 台湾の茶道は、日本と異なり、椅子に座り、小さなカップで少量のお茶を飲みながら音楽を聞いたり、おしゃべりをしたり、のんびりとお茶を楽しむ時間でした。今回は、台湾の中学生の女の子がギターで弾き語りをしてくれました。貴妃美人茶と紅玉紅茶はどちらも美味しく、お茶菓子も紅芋ケーキとちょっと洋風で、贅沢な時間を過ごしました。 ○孔子廟 高校の漢文の授業でよく耳にした孔子。その孔子と弟子が16人祀られており、学問の神として崇められている孔子廟。宮教大メンバーは、教員採用試験合格を、他大学のメンバーは単位取得や卒業祈願、就活がうまくいくようにと願いを短冊に込めてお願いしてきました。私たちの願いが叶いますように・・・	   



3 日目 2/22 (土)	『震災支援に対する感謝の気持ちと、日本文化を伝える一大イベント！』 ○烏山頭ダム このダムは、日本人の八田與一^{はったよいち}により建設されました。訪問団メンバーは、出発前の研修でこのダムに関する映画を鑑賞し、ダムが完成するまでの苦労話や秘話を知っていたこともあって、実物を目の当たりにした時は感動もひとしお。ダムが一望できるところに建てられた八田與一の銅像と一緒にみんなで記念撮影をしました。	
	○農村生活体験 田んぼに肥料を撒く 農家の方々の協力で、田んぼに入って肥料を撒く体験をしてきました。日本統治時代に日本語教育を受けた年配の方に、流暢な日本語でやり方を教えていただきました。中には現地人のように慣れた手つきのメンバーもいて驚き！後日、この様子は台湾の新聞に掲載されました。第5期メンバー、台湾デビュー！！	
	○仙台 PR イベント 今回の訪問の目的ともいえるメインイベント！震災支援に対する感謝や、被災地の現状報告をするため、私達は日本伝統文化の体験や震災復興の様子を準備していきました。台湾サポーターや、当日手伝いにきてくれた現地学生の協力を得ながら、イベントに来てくださった台湾の方に感謝の気持ちを伝えることができました。復興ソング「花は咲く」を歌いながら、震災のことを思い出し、台湾の方々を目の前にして感謝の気持ちがあふれ、感極まり涙する人もいました。忘れられない時間になりました。	
	○ホームステイ（一人一家庭のホームステイを体験しました。詳しいレポートは、14～15 ページ） ↓ 翌日は高雄で夕方までホストファミリーと自由行動。緊張でドキドキ♥楽しみでワクワク♪メンバーそれぞれ、忘れられない出会いがあり、思い出ができました。	
4 日目 2/23 (日)	『毎日がお祭りのような賑わい！！夜市を満喫』 ○花園夜市 台南で最もにぎやかな花園夜市に行ってきました。そこらじゅうから美味しそうな匂いがして、班のみんなと食べ比べしながら、たくさんの台湾グルメを満喫しました。食べ物だけでなく、ゲームコーナーや服屋、雑貨屋など様々なお店があり、見ていただけでも楽しい所でした。ちなみに、5班は夜市でサポーターに派手柄パンツをプレゼント。	

5 日目 2/24 (月)	『未知なる生活体験 with ブヌン族』 ○餅博物館 予定にはなかったけど、急遽時間ができたため、台湾で有名なパイナップルケーキやマカロン、様々な餅菓子（台湾では糕餅（ガオピン））を売っている餅博物館へ。仙台メンバーに限らず、台湾サポーターたちも何を買おうか迷うほどの品ぞろえ。ちなみにこの写真は、餅博物館のマスコット。	
○先住民生活体験	南投県のブヌン族の方々の生活を体験してきました。山の上に村があるため、少し肌寒かったけど、高い所から見下ろす景色は格別でした。犬が放し飼いにされているため、村を散策中に犬にかまれる事件もありましたが、歓迎の踊りをブヌン族のみなさんと一緒に舞台の上で踊ったり、村の食事やお酒を楽しんだり、先住民の方とゆっくり交流することができました。	
6 日目 2/25 (火)	○伝統を受け継ぐ子どもたち ブヌン族の小学校を訪問しました。私たち仙台メンバーを、ブヌン族の小学生が楽器を演奏しながら迎えてくれました。前日に村で見たのと同じ踊りを、子ども達が披露してくれました。こうやって部族の伝統が受け継がれていくのだな、としみじみ感じました。小学生たちと一緒に体操をしたり、リレーをしたりと楽しい時間を過ごしました。	
○感謝カード・アルバム作り	この訪問でお世話になったサポーターや、スタッフに感謝のメッセージを綴ったカードやアルバムを班ごとにサプライズで作りました。1週間を振り返りながら、サポーターとの思い出を語って大笑いしながら楽しく作りましたが、同時にお別れが近づいていることを実感して寂しくもなったり……。一人一人がそれぞれの気持ちを持ちながら、樹谷での最後の夜を過ごしました。	



7日目 2/26 (水)	『台湾サポーターとの最後の交流』 ○大洲地区 自然のものを有効活用させた大洲地区。畑の種まき体験をしたり、ここで採れたとうもろこしを使ってポップコーンを作ったりしました。この場所は災害が起こったり、居住地を移動したりする時に、地球に悪影響が出ないように全て自然に還るようにできています。私たちも見習わないといけないところがたくさんありました。	
	○海 2月なのに、台南は海に入れちゃう暖かさ！そして真夏のような紫外線！水は少し冷たかったけど、みんな海にダイブ！SIRAの二人も海に投げられ、その後はみんな砂まみれに・・・きれいな貝殻をお土産にした人もいました。久々の海、台南での最終日、みんなハメを外して遊びました。	
	○お別れ交流会 1週間お世話になったサポーターと最後の交流会。サポーターのみんなは、台湾の人気の曲でダンスを披露してくれました。途中から私たちも混ざってダンス！仙台メンバーが用意したのは、借り物競争のゲーム。ユニークな小物を身につけて、みんな大盛り上がりでした。最後は、1週間の思い出が詰まったスライドショー。思い出が蘇って、ついにサポーターたちとお別れかと思うと涙が溢れてとまりませんでした。最高のメンバーと出会えて幸せだなー、と改めて感じた瞬間でした。	
8日目 2/27 (木)	『ついに帰国！』 1週間という短い期間の中で、とても中身の濃い経験や出会いがありました。1人1人、感じた事は違うかもしれませんが、台湾の方々に感謝の気持ちを伝えることができました。日本に帰り、台湾で学んだことを訪問団メンバー全員で仙台、日本に伝えていきます。謝謝台湾。到再見の日。ありがとう台湾。また会う日まで。	

高雄・台南・嘉義

* ホームステイ *

3日目夜～4日目



人生初のホームステイ先は、高雄に住むカーティンファミリーでした!! 緊張していたけど、カーティンもお母さんも話しやすく面白かった(笑)震災のこと、将来のこと、趣味いろんな話ことができました。このホームステイで行った場所すべて景色がきれいで感動しっぱなし。会った日の夕飯は、トムクルーズも訪れた鼎泰豊(ディンタイフォン)というレストランで小籠包!!食べたものすべて美味!!二日目、龍虎塔は、龍の口から入り虎の口から出ること、今までの悪行を清めてくれるそう。しっかり噛まれてきましたよ(笑)そして英国領事館。海の近くで景色が最高!!お母さんは昔ここでデートしていたらしい(笑)皆さんもデートはここで(笑)そしてお別れ。楽しかった分、別れが寂しくて大号泣。でも、絶対にまた会おうねと約束をしたから、今はそれが楽しみ!!

(鴻野 美和子)



ホストファミリーと合流してすぐにお父さんの会社の新年会に連れて行ってくれた。驚いたけど、親戚の皆さんとも仲良くなれてすごく楽しかった!夜は、好きなアーティストが同じだったので、それについて色々語り合った!私はホストシスターとその弟、友達とガイドもやっている日本人の先生と5人で観光した。ガイドもやっているということで、みんなが行けないようなところに連れて行ってくれた!龍虎塔、美麗島駅、旗津島、紅毛港保安堂などに行った。どこも綺麗でとても楽しかった。旗津島の展望台や日本人海軍がまつられている廟(紅毛港保安堂廟)はオススメ!言葉が通じなくてもみんな私のために色々考えてくれて、とても優しくしてくれて嬉しかった!すごく緊張したけど良い人たちに会えて良かった。ホームステイを体験して成長できた。今後もこの出会いを大切にしていきたい。(塙 綾佳)



第五回から始まったホームステイは、普段経験のできないことが経験でき充実した時間になりました。ホームステイに行く前は、団員や知っている人がいない所での生活に不安がありましたが、その不安も消えるほどホームステイ先の家族は温かく迎えてくださりすぐに打ち解けられました。ホームステイ先の家族や親戚と台湾の家庭料理や鍋を食べました。台湾で鍋は歓迎するときに皆で食べるそうです。鍋やその他の料理も美味しかったので食べ過ぎてしまいました。そして、たくさんの観光地やおすすめの場所、海や食べ物を食べに連れて行ってもらいました。どれも楽しくて、その中でも高台から見た街は綺麗で感動しました。ここに書ききれないほどの体験をしてきました。そして、楽しくて居心地が良くて1泊2日のホームステイでは物足りなく感じました。（古市 悠夏）



私にとって人生初の海外旅行でももちろん初のホームステイでした。なぜかどうにかなるだろうと、それ程心配はしていませんでした。私のステイ先の子は日本語Goodと書いてあったので安心していったという理由もあります。今思うと、どこからその自信は出てきたのだろうと不思議に思うくらいです。実際に会って話を聞いてみると日本語の勉強を始めて6か月！！驚きでした。私が英語の勉強を始めて6か月の頃って…。しかし自分の勉強不足を実感しました。ほとんどの会話は英語で行われたからです。なんとなくお互いの伝えようとしていることは表情やジェスチャーを通してわかるのですがやはり自分の言葉で伝えられないというのはもどかしいものでした。それでもステイ先では最大限のもてなしをしてくれました。もう一度会って自分の言葉で感謝の気持ちを伝えたいです。（岡田 紗織）



私がお世話になった人の家は学生寮のように使われているアパートで、その後輩さんと私が泊まり夜は三人で川の字で寝ました。合流してすぐ私が建築を勉強していることを知ると、歩道や使われなくなった建物がアートになっている海安路や、神農街という京都のような雰囲気のある場所へ連れて行ってくれました。夕飯もその近くの屋外の居酒屋さんで食べました。二日目は早朝からバイクに二人乗りして縁結びの廟として知られる大天后宮と、台湾の原宿といわれている新堀江に連れて行ってくれました。お昼は牛乳大王で食べました。8日間の中でも特に時間の経過が早かったのがホームステイでした。短い時間の中で至れり尽くせりのおもてなしをしてくださったお二人に本当に感謝しています！！食べ物も全部美味しかったです。多謝！！（岩原 春香）

台湾の食べ物 食レポ ～美食の国 台湾～

美食の街 台南!!と聞いていたので、楽しみにしていた食事。最初は機内食で出てきた不思議なもの・・・これはなに? 果物? 謎・・・。後から聞いたらグアバだったそうです。

さあ、これから先どんな食事が私たちを待っていたのか! その一部を紹介します!

【台湾式茶道】

台湾茶道体験で飲んだ台湾茶。
歌とギター演奏を聴きながらリラックス。



【小籠包】

みんなが、ずーっと楽しみにしていたショーロンポー。
期待を裏切らない美味しさ。ボリュームもすごい!



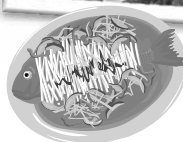
【先住民の食事】

すごい! 丸焼き! 皆のテンションもあがりました。ちょっと残酷・・・いや、人間はこうして生きていくんです!! 噛みごたえがあってすごく美味しかった(*´艸`)



【客家族の食事】

中華と言えば回転テーブル。私たちも体験しました。野菜が豊富でバランスも良し! 白米が出てきて喜んだ人もいたね。





台湾の食べ物 食レポ ～夜市～

これは紹介しなくては！そう夜市です。見るもの全てが新鮮でたくさんの発見がありました。夜市はとにかく人が多い！気を付けないとすぐはぐれてしまいそうでした。道の両端に屋台が並び、目移り……。印象的だったのは鴨の血。何とも言えない食感…こんなにやくと豆腐の間のような。意外と美味しかったけど(*'ω'*)後は有名な臭豆腐。名前から想像できる通り強烈な匂いがします。カラフルなお寿司もありました。



【植木鉢アイス】
鉢植え！？いえいえ、アイスです



【お寿司】

日本のお寿司に比べて全てがカラフル！蛍光緑のものはなに！？

【いちご飴】

見た目もかわいい♥



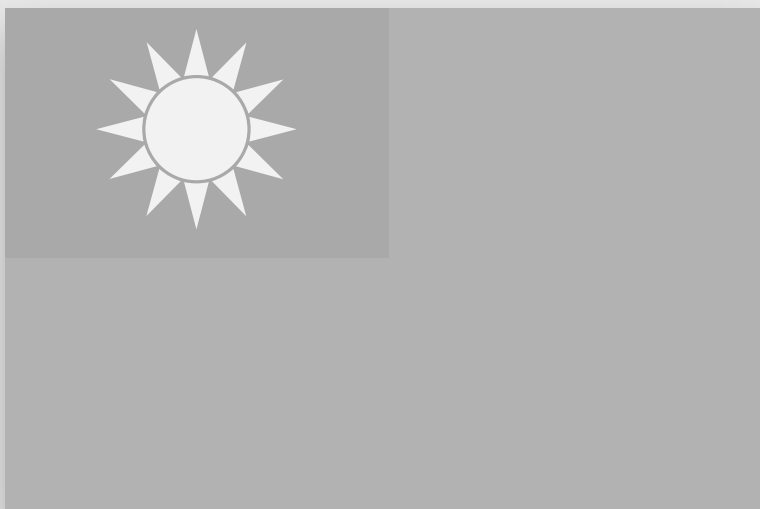
【台湾フルーツ】

マンゴー、グアバ、パパイア・・・
南国フルーツがいっぱい！試食もOK



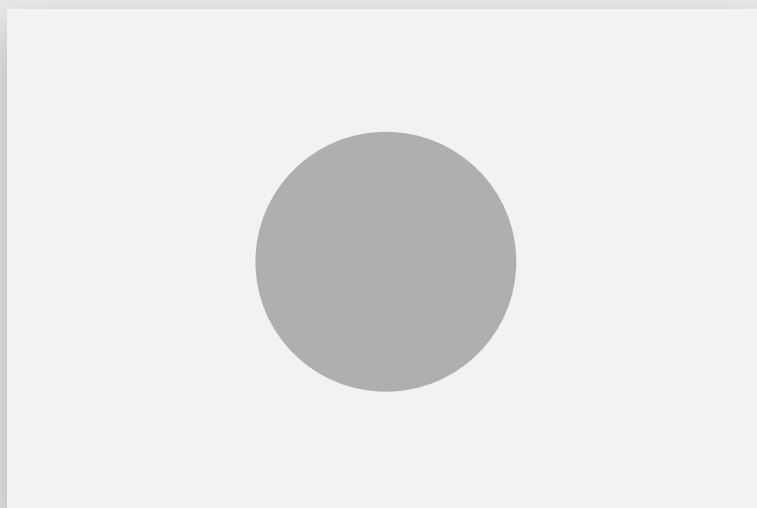
【貝のおつまみ？】

小さな巻貝の中に入ったピリ辛の貝を吸って食べます。慣れるとおいしい。



台南市青少年訪問団 報告書

みんなの感想





私が愛するフルーツ王国、台湾

赤間 汐理

私にとって初めての台湾。ときめきと不安をスーツケースに詰め込んで出発したあの日、なんと、団長が空港で捕まった。サーモグラフィー検査に引っ掛かったのだ。まさかのここで無念のリタイアか・・・と思われたが、マスクをもらって何とか入国。そんなことから始まった今回の訪問。振り返ってみれば、皆のキラキラした笑顔に囲まれてあっという間に過ぎ去っていった、夢のような1週間だった。

初日、朝から移動し続けて疲れている私たちに安らぎを与えてくれた、かんさんの微笑み。台日交流パー



ティーでは、光とかすみんの勝負運の強さ、ゆみさんの表現力、そして大和のゲームの出来なさに驚きつつも、なぜか6班が優勝！支援への感謝、復興の現状、日本の文化を伝えようと皆が一丸となった仙台PRイベントでは、「花は咲く」を歌いながら、震災当時の不安や悲しみを思い出して、今ここにいることができるありがたみを痛感した。ホームステイでは、こんなに話の合う人っているだろうか、と思うくらい気が合うホストファミリーと出会い、カラオケでの悩みから家族のこと、選挙の話など本当に様々なことについて話をした。

ジェイソンのジョークに苦笑いしたり、星空を眺めながらつぐみんのBGM付きでブランコに乗ったり、本当は苦手な犬とちょっとだけ戯れた望郷での夜。自分のテーブル以外の竹の子まで食べつくした6日目の昼食。そして最後のお別れ交流会。こんなに泣いたのっていつ以来だろう、と思うくらいたくさん泣いてたくさん笑った。本当に優しくて温かかったグレイスの笑顔。バスを必死に追いかけて、最後まで見送ってくれたサポーター。

大学も学年もバラバラな26人の仲間たち、7人のサポーター、グレイス、ジェイソン、かんさん、嶋田さん、須藤さん、川合さん。このメンバーで過ごした1週間は、甘酸っぱいパイナップルのような、濃くて甘いマンゴーのような、そんな日々だった。一度食べたら病みつきになるフルーツの王国、台湾に、私は恋をした。

必然

阿部 耕大

今から5年前、中学2年生のころ、国際交流研修として一度台湾を訪れたことがある。大学生となり再び訪れる今回の訪問で、台南への印象が何か変わるだろうと予想していたが、実際には殆ど変わることはなかった。以前見た台南の通り、バイクは多い、独特なおいしさ、料理は美味しい、そして夜市の賑わい。しかし以前のその研修と、今回訪問団での活動の決定的に違うところは”深く人と交わったかどうか”である。団員同士はもちろん、台湾のサポーターとも他愛もない世間話から、少しディープな世情の話、誰が格好良いか可愛いかといった話、さらにシモネタまで、本当に色々な話をした。また、ホームステイではバイクの後ろに乗せてもらい、日本語を専攻する学生たちと彼らの生活圈を一日過ごしたし、PRイベントでは3歳の子供から中学生、大人と一緒にコマやけん玉で遊んだ。事前研修の段階では想像もできなかったくらい沢山の人達と触れ合うことができた。残念ながら中国語で会話をすることはできなかったが、その触



れ合いから台湾人の温かみを感じ、愛を感じた。

東日本大震災発生時には台南の方々からたくさんの支援をうけ、また”送愛到仙台”のキャッチフレーズのもと、あの震災を忘れまいとしていた気持ちを実感した。今回の活動の中で、感謝の気持ちをうまく伝えられたかどうかは定かではないが、私は今後、”送愛到大家”を掲げ、受けた御恩、愛を何らかの形で誰かに還元していきたいと思う。まだ漠然としたイメージにすぎないが、大学生のうちに必ず…。

7泊8日の長いようであっという間だった旅では、別れの際に目から汗がでるほどの素晴らしい出会いがあった。感動的な旅を作り上げた第5回団員、サポーターとの出会いは偶然の産物ではなく、必然だったのではないかと感じる。出会うべくして出会った良き仲間たちとの交流が、これからも途絶えることがないように積極的に場を作っていきたい。

皆さんありがとうございました。謝謝

台南>>>>>>>就活な1週間。

伊丹 昇平

今だから言えることですが、この台南市青少年訪問団の参加は、自分の周りの人からの反対や心配（むしろ呆れられ）が多く向けられた中での参加でした。大学3年生の冬から春にかけて人生を左右するであろう、就職活動の真っ只中だからです。ですが、自分自身は全く心配していませんでした。確実に得ることができる刺激のほうが多いと思っていたからです。そしてそれは自分の予想を軽々と超えました。

出発前から共に準備してきた訪問団のメンバーからの刺激もその1つです。自分が担当した仙台PRブースでは、台湾の人たちにどんなかたちで震災の感謝の気持ちを伝えるかみんな知恵を出し合って考えま



した。今回のような他大学の学生と共に活動するイベントへの参加は経験がなかったので、その際に飛び交う様々な考えや意見は新鮮で斬新で…正直驚いてばかりでした。しかし、色々な考え方を吸収するチャンスだとも思い、自分のない頭を一生懸命使って理解し、負けじと頭を振り絞って考えていました。そのように考えを得られるのは日常生活からも同じで、メンバーみんなで一緒に生活した1週間は、一瞬一瞬が刺激的なものでした。

そして台湾で一番感じたこと、それは台湾の方みんなとても親切だということです。お店の店員さんは、日本人とわかるととても笑顔で接してくれて、サービスしてくれる人もいました。そんな親切さは、サポーターの方々も同じです。私たちのためにきっと長いこと準備をしてきてくれただろうし、毎日疲れた顔を見せずに私たちを支えてくれていました。台湾で接した方みんなに感謝です。

恥ずかししながら、最後に行われたお別れ会で、私はかなり大泣きしました。たぶん人生でもあんなに泣いたのはな

かなかなかったと思います。それだけあの1週間は、強く私たちと台湾が繋がった時間だったのかと思います。このような体験は就活でなんて体験できませんね。それ以上に人生でも体験できるかどうかかわからないほどだと思います。このような国を越えた人と人との繋がりを、これからも体験したいと思いますし、まだ体験したことがない人たちにも伝えていきたいと思います。

そのためにも！まずは就活頑張ります！！



出会い

岩原 春香

私は、今回の訪問団の活動で数え切れないほどの“出会い”を経験しました。まずは事前研修初日、知り合いが一人もいない状態での参加はとても緊張していましたが、同じ小さな町の出身が二人もいたことを知り、大分緊張がほぐれました。二回目の研修になると他のメンバーとも打ち解け、出発の日が待ち遠しかったです。現地に着いてからは、お世話になったサポーターの方々をはじめ、ダム、台湾茶道、仙台PR、ホームステイ、夜市、先住民の村、小学校、バスの運転手さん、道端で偶然出会った人など、行く先々で出会ったたくさんの台湾の方々がいややりを持って接して下さり、私達のことを心から歓迎して下さいていた姿に胸をうたれました。中でも印象に残っているのが、仙台 PR イベントです。私はだるま落としのコーナーを担当しました。イベント開始時間前から現地の人が次々とやってきて陽気に声をかけてくださったので、中国語は話せなくても明るくコミュニケーションをとることができました。ハッピーを着て手伝



ってくれた現地の学生さんに、すごい！や、おいしい！等の掛け声を教えてもらい、度々連呼すると、とても喜んでもらえたので嬉しかったです。子供達はもちろん、お父さんやお母さんもだるまおとしに興味津々で、身振り手振りや表情で正しいやり方を伝えるのは大変でしたが、来てくれた人が成功して帰る時に笑顔で「謝謝」と言ってく下さり、大きな達成感を何度も得られました。イベントの最後に全員で「花は咲く」を歌っているときに、だるま落としコーナーに来てくれた子

供たちやお父さんお母さんがお客さん側の最前列で歌に合わせて体を揺らしているのを見た時、改めて、今回の訪問団の活動に参加して良かったと実感しました。

帰国し、台南と仙台的交流をより深められるよう努力するスタート地点に立ったと思うのでこれからの“出会い”の中で実現していきたいです。最後に、この訪問団に携わって下さった全ての皆さんに感謝致します。ありがとうございました。

最高の仲間とサポーターとの memories in 台南

植野 蒼太

私たち台南市青少年訪問団は台湾の方々に感謝の気持ちを伝えるため2月20～27日まで行ってきました。事前研修はみんなと仲良くなれるか不安で、また初海外だった為、緊張していました。ですが台湾に行ってからすぐサポーターの方々や同じ班の人たちと仲良くなれて良かったです。台湾での一週間はとても内容が濃く、ハードスケジュールの毎日でした。朝早く起きて夜遅く寝る、その繰り返しだったなと思っています。



すべての日程を乗り越えられたのはみんなの団結力があつたため一生の思い出になり、最高のプロジェクトになったと思います。特に Grace さんと Jason さんはすべてとっていいくらい予定や内容の組み方を行ってくれたので本当に感謝の気持ちでいっぱいです。台湾の方々はとても優しく温かい人ばかりでした。サポーターを始め多くの人と出会い、話しましたが心と心が通じ合うってこういうことなのかっていう場面も多くあって感動していました。特に仙台 PR の時は多くの方々が来場して下さって、言語が通じなくて困っているお客さんが多くいました。ですが、言語が違っていても心の繋がりがあれば理解してくれると思いコミュニケーションに力を入れました。そのおかげで子供も大人とも会話ができたような感覚になってうれしかったです。また、一人でも多くの方に感謝の気持ちを伝えたいと思い、「謝謝」とすれ違う方々に伝えました。今現在、震災の風化が進んでおり、遠い記憶になってしまうのではと考えております。風化させない為にも私たち台南市青少年訪問団が研修で行ったことを生かして今後の生活で感謝の気持ちを多くの日本人に伝えることが大切だと思いました。一週間共に過ごしたサポーター、仲間との絆は一生の宝物です。本当に台南市青少年訪問団の一員のメンバーで良かったなと思います。そして3班のみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。のぞ、ゆかさん、さやか、そしてブンブン本当にありがとうございました。最高の活動班で幸せでした。最後になりますが、SIRA のみなさん、台南市の方々、サポーターのみなさん、団員のみなさん本当にありがとうございました。

Uninang Mihomisang !

遠藤 裕香

台湾での一週間は、今まで生きてきた中で一番濃いものでした。色々なものを見て聞いて感じて、私自身が成長できたのではないかと思います。その中で強いて選ぶなら、ホームステイと先住民の村を訪問したことが印象に残っています。ホームステイは一泊だけでしたが、ごちそうを頂いたり、原付で二人乗りしたり、おじいさんと日本語でお話したり、持てないほどのお土産を頂いたり、ご家族から温かい歓迎を受けて本当に楽しい夜を過ごしました。高雄ではペアの子と一日を過ごしましたが、彼女は日本



のことをよく知っていて、日本語も上手で驚きました。逆に自分は全く台湾語が分からず、また台湾の文化についてもよく知らなかったことを申し訳なく感じました。必ずまた会おうと約束しているので、その時までにもっと台湾のことを知っておきたいです。先住民の村は、正直あんなに楽しいとは思っていませんでした。歌や踊りでみんなが一体となって盛り上がったのが忘れられません。音楽は国境を越えるというのは本当だと感じました。次の日、小学校でも布農族の伝統的な歌を聞かせて頂き、伝統が子どもたちにしっかり引き継がれているのを見て、とても感動しました。タイトルにした言葉は布農族の言葉で、ありがとうという意味があります。台湾の伝統を感じる貴重な経験ができました。

台湾の方は会う人みんながとても親切で、台湾が大好きになりました。今後、この活動のなかで学んだことだけでなく、震災を受けて台湾から多大な支援を頂いたということ、を、どんどん外に発信していこうと思います。そして、ここで出来たつながりを続けていって、私たちが台湾と日本を結ぶ存在になっていきたいです。

最後に、青少年訪問団の皆、サポーターの皆、仙台国際交流協会の方々、嶋田さん、ジェイソン、グレース、奇美の方々、ホームステイ先のご家族、私達の知らない所で支えて下さった方々、関わって下さった全ての人に感謝したいです。ここでの出会いが私の財産になりました。ありがとうございました。

謝謝！



TAION!TAION!

大土 将皓

私は去年、日本と台湾が野球の世界大会である WBC で対戦して以来、台湾という国のファンになった。だからこの研修に参加できることが決まった時は本当に嬉しかった。だが、しかし、私は当日に風邪をひいてしまった。

自分に熱があると気づいたのは台湾の空港に着いてからだった。空港に着くと係りの人から、「T a i o n, T a i o n」と呼び止められ、この時初めて、熱が8度3分あることに気がついた。そして、この一週間は体調が良くなったり、悪くなったりの繰り返しだった。ただ、自分としてはこの一週間を全力で楽しめたと思う。バスの中でゴリラの話も出来たし、日本の将来について夜遅くまで語ったりもした。民族の踊りを全力で踊り、歌も歌い、海にも入った。子供たちと一緒に走ったのもいい思い出だ。風邪で喉がつぶれて生まれたハスキーボイスを楽しめたのも良かったと思う。

そして何よりも、台湾で出会った人々、この研修のメンバーと出会えたことが一番良かった。皆であんな風に一緒になって泣いた経験は今までになかった。

それから私はみんなのことを心から尊敬している。私が自ら行動を起こすようになったのは、三年生になってからだったが、それに対してこの訪問団に参加したメンバーは自分よりも下の学年がほとんどで、しかもそれぞれが自分の考えをしっかり持っていた。台湾のサポーターのメンバーも、一人ひとりのことを気遣ってくれ、日本語で的確な指示を出してくれる優秀なサポーター達だった。もちろん、川合さんや須藤さん、ジェイソンやグレイス、嶋田さんのことも心から尊敬しているし、もっと色々な話が聞きたかった。皆とも、もっと色々な話がしたい。だから、私はこの縁を一生の縁にしたい。そういう風に出来るかどうかは自分たち次第だと思うし、自分はいつでも奈良から帰って来ようという気持ちでいる。みんなと再会した時にまた団長と呼んでくれたら、なんだか、研修がまだ続いているみたいで嬉しい。一週間本当に楽しかった。最高の思い出と、最高の出会いを有難う。謝謝！我愛台湾！



泣いて、笑った最高の一週間

岡田 紗織

私は、今回のプログラムに参加する前、何か物足らなさを感じていました。大学に合格しやる気に満ち溢れていたはずなのに、いざ学校が始まるとなかなか新しいことにチャレンジ出来ずにいました。そう考えていたときこのプログラムの募集を見つけました。「これだ！」。詳細を見ると、震災支援の感謝・仙台の学生の元気を伝える…。震災で私が感じたこと、私が大学に進学を目指した理由がこれを見て再確認出来ました。食べてる時の笑顔って皆最高なんです。私はそれが大好きでそんな笑顔をたくさん見たかったんだと思い出しました。



タイトルにあるようにこの一週間はお腹抱えて笑うし、皆で号泣するしこんなに感情表に出した一週間は今までありませんでした。そしてもちろんたくさん食べました。食べまくりました。鴨の血も挑戦しました。味はご想像にお任せします。小籠包は美味でした。初めて食べましたが是非また食べたいです。(台湾で!) 台湾の料理は個人的にどれも好きな味でした。独特な香辛料の香りも帰る頃にはクセになっていくくらいです。国を超えてもやっぱり同じです。「美味しい!」って言う時の満面の笑み。食べるってすごい! 皆の幸せそうな顔! 何度も見る事が出来、個人の目的

は密かに達成されました。

今回台湾に行くことが出来て、本当に幸せです。文章書くのが苦手なので、思っていることをうまく伝えられないのが残念で仕方ありません。貴重な体験をたくさんさせて頂きました。高雄でのホームステイや、人の多さと活気に驚いた夜市、思わず踊りだした先住民パーティー、はしゃいだ海、涙涙のお別れ交流会。どれも大切な思い出です。そして何より、これからも繋がっていたい大切な仲間になれたことです。お互いに連絡を取り合って今回だけでは終わらせません。これは第五回の参加メンバー全員が思っていると信じています。最後になりましたが第五回台南市青少年訪問団でご協力頂きました全ての皆様に感謝の気持ちを込めまして謝謝!!

送愛到台南

加藤 厚菜

台南ではたった1週間ほどでしたがたくさんの素敵な思い出ができました。私は大学生活をすでに半分過ごしましたが、この2年間で1番と言っていいほどでした。そう感じるのはいきっと仙台PRや民族体験、ホームステイなど普通の旅行では経験できないことをさせて頂いたのが大きいと思います。これらを通して団員とも、台湾の方とも打ち解け、笑いあうことができたし、久々に皆で何かを協力して成し遂げることの気持ち良さも感じました。

そしてこのプログラムのおかげで私の気持ちも変わりました。大学で私は中国語を学んでいましたが、特に目標も無く、なァなァとなってしまうしました。そんな中台南へ訪れ、私は震災時の感謝など本当に伝えたかったことが自分の口で伝えることができず、悔しさを感じました。この悔しさを経験して3年次では関わった台湾の人達と中国語で会話ができるくらいになりたいと思うようになりました。

私達は仙台の多くの学生の中から代表





して行きました。だからこそ台南のことを家族や友人などたくさんの人に広めていく役目があります。そして1度だけの交流で終わらず、時々連絡をとったり、互いの国を訪れたりして絆を深めていけたらいいなと思います。「送愛到仙台」の言葉の通り、台南の方達は私達や仙台に愛を届けてくれました。これからの生活で私からも台南へもっともっと愛を届けていきます。今回このプログラムに関わって下さった人々に感謝しています。本当にありがとうございました。我愛台南！謝謝！

友達の輪に国境なし♡

加藤 郁美

台南市青少年訪問団の一員としてこのプログラムに参加し、台湾のサポーターやホストファミリー、現地の人々との関わりを通して、今まで知らなかった台湾の文化を直接目で見て知り、実際に体験し肌で感じる事ができたことに心から感謝しています！台湾に行き強く感じたことは、台湾の方々が日本に対し興



味や好意を抱いてくれているということです。街中には日本の物や日本語があふれ、中には日本語で話しかけてくれる人もいました。すごく嬉しい気持ちになると同時に、自分の台湾に対する知識の乏しさや中国語がわからないことに対し、申し訳無さを感じました。しかし、だからこそ私たち訪問団のひとりひとりがこれからもっと多くの人に台湾について伝えていく必要があるのだと思います。

台湾で過ごした一週間は本当に中身の濃い充実した時間でした！古跡を歩いてまわり、おいしいよと言われ飲んだお茶は思わず声が出るほど甘く、班員全員驚きを隠せない表情。そのあと食べ

たラベンダー味のアイスにも全員困惑の表情。夜市では甘い物を見つけてはとにかく食べ、ゲームを見つけてはとにかく遊ぶ！原住民の村ではイノシシを美味しくいただき、お酒で乾杯し、みんなで踊り、小学生と一緒に全力ダッシュ！最終日には海で思いっきりはしゃぎ、笑って、そのあとのお別れ会では思いっきり泣いて、別れを惜しむ！他にも仙台PRでは台湾の高校生と友達になったり、来てくれた人と一緒におしゃべりして写真を撮ったり、ホストファミリーと高雄をたくさん観光したり、この一週間での経験と出会いは本当にかけがえのないものとなりました。住んでいる国、話す言語、育った文化を越えて過ごした日々は、友達になるのに国なんて関係ないんだ！と教えてくれました。私は将来の夢である教員になり、今回得た学びをより多くの子どもたちに伝えていきたいと思っています。このような素敵な経験ができたのはこのプログラムに関わってくださっている多くの方々のおかげです。本当にありがとうございました！謝謝台湾！我愛台湾！

私にとって台南研修とは、楽しいParty だったぜ！！

加藤 光

まず初めに私はこの題名に素晴らしい手ごたえを感じている。歴史に名を刻んだプロレスラー「スタン・ハンセン」が引退時に残した言葉からとっている。さて、前置きはこれぐらいにしておこう。

私がこの企画に応募したきっかけは外国に興味があったことと津波体験者として震災のことをたくさんの人に知ってほしい。また、自分自身震災が起きた事実を再認識させるため。被災者としてチャンスがあるならこの様なイベントには是非とも参加したいと思い応募した。なんとか行けることになってからメンバーとの初めての顔合わせ。私は気合を入れて爽やか黒髪から本田圭佑並みの金髪に仕立て上げてきた。準備は万端。あとはみんなと仲良くなるだけだ！と意気込む。だがしかし浮いた。今考えるとよくここまで仲良くなれたと思う。先輩方には実はとても感謝している。

台湾では大和率いる6班でポケツコミ満載の素敵な観光を楽しんだ。色々な思い出がありますが、やはり仙台PRのイベントが一番だと思う。この企画の一番の目的であり、私にとっても成功させることに意味があるイベントです。前日までは準備も忙しくピリピリしていたし不安も募っていました。いざイベントが始まるとたくさんの人が集まり、日本の遊びや伝統に触れていきました。震災ブースで震災の様子のスライドをじっと見つめてる人もいました。スライドを見終わった後、多くの人が短冊に日本復興を願う事を書いてくれていました。私はそれを見ていろいろなところで支えられているのだと深く感じました。また、とても幸せに感じ心の底から感謝を伝えることができたと思います。

今回この企画に参加してたくさんの出会いがありとても貴重で大切な経験ができた。もちろん大変なこともあった。先輩方からの荒い無茶ブリが多くメンタルも鍛えられた。私はこの出会いを忘れない。必ずこの先の人生で自分を支えてくれるものとなると思う。最後に。いい日だ。今日という日を忘れるな。キャプテン・ジャック。スパロウ



チーム・ふわほわキャプテン ヒロ君!!

鴻野 美和子

目がなくなるほどニコニコ笑顔、でも人一倍涙もろい【むつみ】、一見クール、でもいきなりダンスしたり実はギャル…(?)な【しょーはる】、ケニア帰りで、初日からキャリーのコロコロ1つなくして不思議ワールド全開の【つぐみん】、事前研修のときとは髪色が激変していて「お前誰…(笑)」状態だった【みっちゃん】。そんな個性あふれる5班メンバーのサポーターは、見学先の資料を作ってきてくれるがんばり屋、でも、気がつけばイタズラを仕掛けてくる【ヒロ君】!!

初めての海外だったけど、ヒロ君のサポートのおかげで安心して過ごすことができた。PR イベントでは、日本語から台湾語に変換する通訳をつとめ、震災のことや現状、台湾の方々の支援に対する感謝を伝えるのを手伝ってくれた。ホームステイ先の人と龍虎塔を訪れると、偶然にもヒロ君たちと遭遇。

しかし、そこで衝撃発言「ごめん!!名前なんだっけ(泣)」私の名前が長すぎたそう(笑)そんなヒロ君、ホストファミリーとお別れするときに、寂しさのあまりグズグズ泣いている私に、「みっちゃん、泣かないで。」



また会えるよ。」となくさめてくれた。この一言で、なんとか落ち着いたんだよね。先住民の生活体験では、マッコリ風のお酒を飲んで顔が赤くなって、「だいじょぶ。生きてる。」を連呼(笑)これがかわいいの!!移動中、後ろから髪の毛わしゃわしゃして「誰だー!!」と少年のような目でいたすら。これまたかわいいから許しちゃう(笑)海では、みんなに飛ばされてびしょ濡れになってたね。この時、私が買ってあげたパンツをちゃんと履いてくれてた!!ちゃんと履いてるとこ見せてもらえたし(笑)お別れ会。ホームステイの時以上に号泣する私や5班のメンバーに「悲しいと思わないでね。日本と台湾近いよ。いつでも会える。また会おう。会いに行く。」の言葉。感動してまた涙。本当に充実して、あっという間の1週間だった。今まで経験したことのないくらい。サポーターがヒロ君で、そして5班でよかった。謝謝台湾!!

心に刻みつきたい一週間

今 絢子

楽しかった思いはその一瞬でしか感じる事ができなくて時間が経つ共にどんどん忘れてしまうのだと思うと改めてとても切なくなりました。けど、台湾で過ごしたみんなとの素敵な時間は心の中に深く刻み付けて年をとっても絶対に忘れたくないと心から思える一週間でした。台湾での毎日は自分が今までに体験したことのない多くの事を体験させてくれました。

特に思い出に残ってることは台湾のサポーターであるせんちゃん、団長、きょんきょん、つな、そーちゃんとみんなで色々な台湾の歴史的な場所に行ったり美味しいものをたくさん食べたりふざけながらみんなで写真を撮っていつでもどんなときでもみんなではしゃぎながら過ごし、楽しんだ事です。私たち一班は本当に仲が良くてバスの移動中もずっとお喋りしていました。たった一週間という期間で年も学校も違う、ましてや国も違うサポーターもいるのに一班のメンバーとの絆が生まれて幸せでした。そして、私は一班のメンバー全員の事を言葉では書き表せないほど本当に大好きでみんなと一緒に素敵な時間を過ごせて本当に幸せでした。

今回の台南市に来た目的である仙台 PR イベントでは仙台の学生26人が一丸となって仙台の被災地の復興の状況を台湾の人々に伝え、日本の遊びや文化を紹介しました。私は浴衣ブースを担当しておりイベントに来た人たちの浴衣を着付けしました。空き時間に台南の大学生のサポーターと軽い日本語で話したり浴衣の着付けに並んでいる現地の方々と通訳を挟みながら交流したり楽しい時間を過ごせました。子供たちの着付けして触れ合ってる時に思ったことは私はやっぱり子供が大好きだなと改めて思いました。

台湾に来て、感情と表現で人と人は結びつくことができる事、言葉が通じないことで大変な事もありますがそれを越えるくらいの

台湾の人々の温かさを身に染みて実感することができました。私はホームステイ先で夜中まではるみんと将来や今までの事をお互い語りあった事、中国語も台湾語も一切できない私に温かく迎えて優しくしてくれて別れるときに思いっきり抱きしめてくれたホームステイ先のお父さんとお母さんの事を一生忘れないと思います。この台南市青年訪問団を通じて感じて学んだ事をいま活動しているボランティアサークル



で訪れる子供達に自分たちが知らない所でこんなにも私達は支えられているんだって事を伝えたいと思います。そして、将来は子供達に携わる仕事がしたいと思いました。最後にこのプログラムに関わった台湾のサポーター、26 人の仲間達、仙台国際センターの皆様全員に感謝しています。本当にありがとうございました。

人生のターニングポイントとなった旅

齋藤 睦

台南市青少年訪問団の活動を通して多くのことを得ることができましたが、私は特に多くの人との出会いが一番の収穫だと思います。この研修で出会った訪問団や現地のサポーターはみんな明るく、一緒にいてとても居心地が良かったです。彼らとは連日夜遅くまでくだらないことを語り合い、寝ることを忘れて騒ぎ合っていました。その日々はおそらく今までの人生で一番楽しかったです。一方、彼らは自分の中の軸はしっかりしていて、進んでいる道は多様ですが目標に向かって努力している一面を持っていました。また現地の日本人ボランティアの嶋田さんと SIRA の川合さんとの出会いも印象的でした。嶋田さんは高校時代に世界を一周し、大学卒業後に日本の企業に就職せずに台南の企業に勤め、現在営業の仕事をしている方です。川合さんは大学卒業後海外の会社に勤め、現在は SIRA で仙台市の国際交流事業に尽力しています。



このお二方に共通している点は、社会の枠にとらわれず自分のやりたいことを全力で取り組んでいることです。その姿はとてもいきいきしているように見えました。この旅で出会った人達はしっかりと自分の指針を持っていてとても魅力的でした。彼らと自分を比較してみると、自分は将来の目標をやりたいことをベースにせず、社会的評価や家族の意見ばかりを考慮していた気がします。そして自分のやりたいことを無意識に押さえつけていたことに気づきました。確かに収入やステータスは重要ではありますが、そのことに固執することは自分の可能性を潰してしまう気がします。

私は今回の研修を通して周りの評価ばかりを重視していた自分を恥ずかしく思いました。今後は自分のしたいことをベースにして将来の指針を決め、周りにとらわれず自分に正直に生きていきたいと思います。

たくさんの贈り物

佐々木 明

去年の春に第 4 回の訪問団で台湾を訪れた学校の先輩が大学生活についての紹介のときに話していたのを聞いたことが私がこの企画を知ることになったきっかけでした。大学生って何が楽しいだろう。第一志望のところではない大学に入っただけに、何の期待もしていなかった春に、初めて“面白そう”と思えたのがこの青少年訪問団でした。

初めて事前研修に行ったとき、年上の人ばかり、友人など 1 人もおらず、団体行動が苦手な私が 1 週間この人たちとうまくやっていくことができるのか、という不安でしかありませんでした。

しかし、この 1 週間楽しかっただけでなく、一緒に旅をした仲間達やサポーターメンバー、スタッフ



さんからたくさんの学びをもらい、気付かせてもらうことができました。

謝辞台湾ということで、みんなで協力してつくった仙台 PR イベントは、前日にバタバタしてしまい、反省点が多く残る結果となってしまいましたが、私が担当していた習字でひらがなを書いて来ていただいた方々にプレゼントするブースでは、たくさんのお客様がいらっしゃって、“謝謝”だけでなく“ありがとう”と笑顔で言ってくれるお客様がたくさんいたことにとても嬉しい気持ちになりました。

ホームステイでは、日本から自分で持ち込んだ茶道セットでお茶の点て方を教えて、お抹茶を飲んでもらったり、実際に点ててもらったりして、文化交流をすることもできました。改めて相手に教えることによって、日本の文化の奥深さを再確認することができたのも今回の訪問団で学べたところです。

台湾の方々との交流だけでなく、長い移動時間や樹谷会館や民族で過ごした夜にたくさんのお話をすることで、普段全く違う分野

を勉強している人達の物事に対する考え方、価値観を知ることができました。それによって、大学進学してから自分が視野を広くしようと決めて活動してきたことでも段々と狭くなってきていたということに気付くことができました。

これだけではなく1週間本当にたくさんのお話を学ばせていただきました。私にとって、人生の贈り物をたくさんもらった1週間でした。

そこには、全く苦なところを見せずに裏でたくさん準備をしてくださった台湾のサポーターのみなさん、引率してくださった交流協会の方々、私の知らないところでたくさんの方が動いてくださっていたと思います。本当にありがとうございました。

花は咲く

庄司 晴香

私は以前から国際交流に興味があり、今回の「台南市青少年訪問団」の募集を見たときには「絶対に参加したい!」と思いました。正直、このときはまだ「一週間台湾に行ける。」という気持ちだけでしたが、事前研修やメンバーとの交流の中で、台南市訪問の目的を意識することができました。

今回、台南市訪問の中で印象に残る出来事がありました。それはホームステイ先で聞いたお話です。東日本大震災が起きたとき、台湾では一日中ニュースで震災のことが取り上げられ、津波の映像が放送されていたそうです。その後すぐに街頭では募金活動が行われ、沢山の人が被災地を心配して、いち早く支援活動を行ったということです。私はこのお話を聞いて、国を越えた人の温かさ、優しさを感じました。また世界中の

多くの方が被災地のことを想ってくれている、ということを実感することができました。しかし、台湾では現在、震災のことはあまり取り上げられておらず、被災地がどこまで復興しているのか、またどのような状況にあるのか知られていないと言っていました。時がたつにつれて人々の記憶は薄れていきますが、多くの命が一瞬にして奪われた大震災の記憶を風化させてはいけません。私は故郷、仙台・東北のことを



もっと沢山のの人に伝え、被災地の復興と防災への重要性を知ってもらいたいと思います。

仙台 PR とお別れ交流会で歌った「花は咲く」のなかでこのような歌詞があります。「誰かの笑顔が見える 悲しみの向こう側に 花は 花は 花は咲く」 今回の震災で数えきれないくらいの悲しさ、辛さが人々の心の中にありました。しかし、その悲しさの先にも花は咲き、誰の心にも花は咲きます。私は台湾で過ごした日々を決して忘れません。被災地の復興のために、また多くの花を咲かせるためにも、この出会いを大切に、台湾の経験で得た国際交流の意義を多くの人に伝えていきたいと思います。

一期一会

菅原 恭平

私は今回、第5回台南市青少年訪問団としてこのプログラムに参加させていただきました。この機会を与えてくださった担当者の方々を始めとして、お世話になった全ての方々に感謝いたします。台湾での一週間が濃すぎて、刺激的すぎて、とてもではないですがこの報告書に書ききれものではないですが、許される範囲で書いていきたいと思います。

書きたいことはたくさんありますが、特に印象に残ったものはやはり「言語、人種を超えた人とのつながり」です。今回の台南市、高雄市での生活を通してたくさんの台湾人と関わることができました。正直私は中国語、台湾語をほとんど話すことができません。台湾人学生サポーターやホームステイ先の学生はある程度、日本語を話すことができるので、まだ大丈夫でしたが、仙台 PR に来てくれたお客さんは、日本語を話せない人たちがばかりでした。最初こそ会話のできない戸惑いや、気まずさなどもありましたが、だんだんと笑顔や身振り手振りで、コミュニケーションをとることができました。私は主に習字ブースやコマブースにいました。そこで、名前を書いてあげたり、一緒にコマをまわしたり、しているうちに、仲良



くなって、お礼に折り紙で折った船をもらったりしました。そのときに、言葉や国籍が違ってても笑顔で関わることができれば、心は通じ合うのだなと思いました。

またもうひとつのつながりは学生サポーターとのつながりです。基本的に全てのプログラムを班で行動するのですが、その各班に台湾で日本語を学んでいる学生サポーターがついてくれました。一緒にいたのはたった1週間なのに、もう何年も一緒にいるかのように感じました。いろいろなものを見て、色々なものを食べ、色々な話をして、語り明かした夜もありました。それ

だからこそ、お別れの日があんなにつらかったのだと思いました。

このように、今回の訪問団を通してたくさんのつながりができました。「一期一会」という言葉の意味を、これほどまでに実感したことはありません。これらのつながりを決して絶やすことなく、維持・発展して、一生の財産にしていきたいと思います。



『その訪問の先に何が見えますか?』～台南市訪問団に参加して～

手塚 大介

今回の台南市青少年訪問団への参加は、市政だよりの募集欄を目にしたという、ふとしたきっかけから始まりました。

前々から国際交流に興味を持っていたという訳でもないのに幸運にも参加させて頂いた訳ですが、そこには素敵な出会いが沢山ありました。

その中で、大きな影響を受けた出会いを二つ挙げるならば、一つは現地で行動を共にしたサポーター、そして仙台PRでご協力を頂いた日本語学校の学生たちとの出会いです。彼らの日本語力は相当なものであり、中には日本文化について我々よりも深く知っている者もありました。ひしひしと伝わってくる、「日本が大好き」という原動力のもと、向上心をもって学んでいくその姿を見て、私自身も負けていけない、もっともっと頑張らなくてはと触発されました。

そして、もう一つの出会いは、8日間行動を共にした素敵な団員たちとの出会いです。私自身、薬科大という単科大に4年間居り、これまで他大学の学生との交流は殆どありませんでした。飲みに行くのも同じメンバー、話す話題はいつも研究の話と薬の話。。。そのような私でしたが、様々な大学・学部のような私でしたが、様々な大学・学部の様々な考えを持つ優秀な仲間達と同じ時間を共に過ごすことで、視野が広がり、大きな刺激を受けました。今回の訪問で台湾が大好きになり、折鶴に書いたメッセージを見に、そして、茶道体験をした際に封印したタイムカプセルを開けに、必ずまた台湾へ訪問したいと考えています。次の訪問が一体何年後になるかわかりません。そのとき自分は一体何をしているのでしょうか? 4月から始まる医薬品関係の仕事が続けているのか、それとも、別の新たな道を見つけて歩んでいるのか。どちらにせよ、次に台湾を訪問しお世話になった方々に再会した際に、当時と比べて自分はこんなに成長した、こんなに頑張ってきた、と胸を張って報告できるように、悔いの残らないよう一日一日を大切に過ごしていきたいと思います



国と国。

豊田 亜美

私のホストシスターは以前、海外で他の国の学生と一緒にインターンをした経験があるそうだ。ある時、中国人学生がふざけて『台湾は中国の一部だからね』と言った。英語だったため他の国の学生にも聞こえた。彼女はその後、ものすごく怒って泣いたそうだ。

「中国人と台湾人の間だけで言うなら笑って流せたかもしれない。だけど国際社会の中で認識の広まっていない台湾のアイデンティティーを他の国の人たちの前でからかわれたことには許せなかった。台湾のアイデンティティーの問題は確かに難しいけど、オリン



ピックで台湾だけが国旗を掲げられない悔しさをわかってほしい。」このこととは直接関係ないが、ホームステイ先でこんなこともあった。夜市に行くことになり、ホストファザーから「夜市には中国人観光客がたくさんいるから、マスクをしていきなさい。なにか悪い病気をもらうといけないから。」と言われた。この言葉にはとても驚かされた。ただ風邪を予防するためなら中国人観光客について言及する必要はないのでは、と思った。後でホストシアターに聞いたところ、彼女のお父さんは中国人観光客が嫌いだし、彼女自身も「マナーが悪いからあまり好きじゃない」とのことだった。

日本人の私は無条件に受け入れられて、中国人の不特定多数の人々は嫌われているという事実は少し心地が悪かった。日本でも反中と呼ばれる人々はある程度の割合でいるし、台湾の場合は歴史的ないきさつもある。そのことを考えると中国人を嫌うことは納得できないことではないし、私はそれを否定するつもりはない。ただ、ホストファミリーたちの私に向けられる笑顔や優しさが、“私”を通り越して私の国籍“日本”を見据えた上でのものだとしたら、ちょっと悲しいなと思った。

以上、一番印象的だったことを書きました。他にも書きたいことはたくさんあるので、続きは私の個人ブログにアクセスして頂ければと思います。

→『若気の至り、まっさかり。』で検索を。(http://ameblo.jp/one-time-thousand-money)
この訪問団においてお世話になった SIRA の皆さん、奇美グループの皆さん、ホストファミリーの皆さん、サポーターと参加者のみんな、旅先で出会った方々、本当にありがとうございました！

優しさに触れる旅

野笹 友

私がこの訪問団に参加したのは、始めは単純な興味からでした。過去の訪問団に大学の先輩が参加しており、良い活動であったと聞いたのが始まりです。その時はまだ、今このような気持ちでこの文章を書いているとは思いませんでした。私がこの台南訪問を通じて一番感じたことは、「人の優しさ」です。この一言に尽きると考えています。この一週間で、様々な優しさに触れてきました。まず思い出すのが、ホームステイを受け入れてくれた友達のことです。彼は学生で、台南から少し離れる屏東市に住んでいました。高雄駅で初めて会い、10 分後にはバイクの後ろに乗って高雄の街を爆走したのには驚きましたが、一緒に屏東の夜市に行ったり、翌日には一日高雄の街をバイクで走りまわったりと、普通に台湾



へ旅行で行っただけでは知ることのできない、リアルな生活感を体験することができました。それもすべて、彼がホームステイを受け入れてくれたおかげです。本当に感謝しています。また、現地で様々な手助けをしてくれた台湾サポーターの皆には、本当にお世話になりました。彼らの準備は本当に大変なものであったと思います。しかし彼らはそんな様子は私たちに全く見せず、常に優しく、真摯で、そして心から楽しんでくれました。そんな彼らと一週間過ごすうちに、いつの間にか日本と台湾といった国境を意識していない自分に気が付きました。彼らのおかげで、本当の意味での国際交流とは何かが分かったような気がします。最終日の夜、彼らと朝まで話したことはいつまでも忘れられません。お別れ交流会ではお互い涙しながら、いつか必ず会おうと約束してきました。これは、今の私の夢の一つになっています。

この訪問団はただ行って帰ってくるのが目的ではありません。私たちがこれから先ずっと繋がり、日本と台湾をもっと近い国にできるよう過ごしていきたいと思っています。参加することが出来て心から良かったと感じます。ありがとうございました。



台湾に恋をしました

長谷川 侑美

台湾で過ごした一週間は、ひたすら台湾を好きになって、まるで台湾に恋をしているようでした。台湾に行っていちばん強く感じたことは、やはり人の温かさです。台湾サポーターを始めとする台湾の人は優しい人ばかりで、こんな素敵な人たちが震災にあった日本や東北、そして仙台を支えてくれているのだと実感することができました。

また、特に印象に残っているのはホームステイです。私のホストファミリーの Raven は、日本語が話せず、会話はすべて英語でしたが、私のつたない英語でも一生懸命聞いて理解してくれて、話した内容に関しても楽しいと言ってくれました。最初は不安でしたが、英語で話すことが楽しいと感じられ、今は逆に英語で話せて良かったと思っています。私がバイクの後ろに座っているときも赤信号になる度に Raven は



私を気にかけてくれ、一日中ファミリーや高雄の街で出会った人々みんなから台湾の人の温かさを感じることができました。Raven とは高雄の名所を回りながらいろんな話をしましたが、良く話した内容は、やはり台湾と日本についてです。台湾と日本の文化や習慣について話していてとても興味深く楽しいと感じたのと同時に、私は台湾について深く知識がないのだと反省もしました。「台湾の人は日本のことをこんなに知っているのに」と恥ずかしくもなりました。次回来的时候は、私も台湾について今以上に勉強し、語学力のレベルもあげて台湾に来たいです。

この台南市青少年訪問団として台湾に行けたことは私の人生の中で最高の宝物です。私は最終的には教師になりたいと思っていますが、この台南市青少年訪問団での経験は私が将来、どんな人生の選択をしても何かを成し遂げる強い自信になると思います。この一週間で台湾のことが本当に大好きになりました。これから日本の皆が台湾をもっと知って好きになってくれるように私も努めたいです。これからも私はずっと台湾に恋し続けると思います。

素敵な出会い☆☆

塙 綾佳

今回のツアーではたくさんの人に出会い、最高の思い出ができました。毎日を共に過ごしたサポーターのみんな、温かく迎え入れてくれたホストファミリー、行く先々で出会った親切な方々。台湾の人はみんなとても温かく、優しく、毎日が感動でした。私達のために時間をかけて一生懸命考えてくれて、いつも笑顔で見守ってくれて私はとても嬉しかったです。言葉は通じなくても心を通わせることができるのだと実感しました。また、台湾ののどかな風景や澄んだ空気、美味しい食べ物にもたくさん出会いました。原住民の村での豚の丸焼きには驚きましたが、とても美味しかったです。そしてもちろん一緒に旅した仙台の素敵な仲間との出会いもありました。はるみ率いる私達2班はいつも全力。全力で食べて、全力で買い物して、全力で楽しんでいつも集合時間ぎりぎりの私達は毎回のよう集合場所まで全力ダッシュでした(笑)安平でやった三日月形のおみくじでは全員が一発で吉を出すというミラクルを起こし、嬉しくてはしゃいでいたら怒られてしまいました…。これは私の一番印象に残っている思い出です。最後に行った海では、水の中に放り投げられたり、水をかけ合ったり、砂に埋めたりとすごく楽しい時間を過ごすことができました。最高の国で、最高の仲間と、笑って、泣いて、走って、踊って、



本気で過ごした 1 週間は私の一生の宝物です。やりたいと思ったことには積極的にチャレンジしてみよう、自分の目で見て、自分の体で実際に体験してみることが大切だと思わせてくれた、私を成長させてくれた台湾の旅でした。台湾の人達とふれ合っていて、日本のことを心から愛してくれているのだなと感ずることができました。そんな台湾が私は大好きになりました。もっと台湾について勉強して、またみんなに会いに行きたいです。いや、絶対行きます!!これからもずっと繋がりを絶やすことなく、この出会いを大切にしていきたいです。

最高の仲間と最高の笑顔

古市 悠夏

台南市青少年訪問団を一言で表わすなら『最高』

まず、第五回のメンバー 1 人ひとりが最高でした。みんな個性的で楽しいことが好きで常に笑っていたからこの一週間が濃くてあっという間に感じたのだと思います。とにかく笑って笑顔で溢れる一週間でした。

そして、台湾で過ごした一週間はどれも素晴らしく貴重な経験が出来ました。その中でも、台湾のサポーターと出会えたことと仙台PRとホームステイで現地の方々と触れ合うことが出来たことが今回の大きな思い出と収穫です。まず、台湾サポーターの歓迎に感動しました。サポーターがいたからこそ貴重な体験や楽しい思い出ができました。サポーターとの他愛もない話しや、お酒を飲んで笑いあった時間が楽しくてもっと話をしたかったです。仙台PRでは、直接現地の人に仙台の感謝を伝える機会だったのでとにかく感謝を伝えたいと思って臨みました、言葉は通じなくても日本の遊びを通して感謝を伝えられたと思っています。そして楽しんでもらえて本当に嬉しかったです。ホームステイ先では、ゆっくり家族と話す機会があり、仙台や福島の震災後の現状を伝え東北のイメージを直接聞けました。現地の私生活や現地の方々と直接触れ合え貴重な経験が出来ました。



この他にも訪問団ではここに書ききれないほどの経験や思い出があります。本当に濃い一週間であっという間でたくさん笑った一週間でした。そして、台湾の方々が温かくて居心地が良くてもっと台湾にいたいと思った旅でした。今回の訪問団で感じたことは、メンバーが個性的！そして優しく温かくて面白くて笑顔が素敵なメンバーだったからこんなにも最高の一週間になったのだと感じます。そして台湾サポーターが本当に素敵でサポーターがいたから楽しかった。今回の経験したことを所属する仙台の2つの祭りの実行委員と防災士の活動の中でも活かしていきたいと思っています。そして台湾と仙台の交流に関わっていきたいと思っています。台湾大好き♡ また台湾に必ず行きます！



「はるみの肩パンチは地味に痛かった・・・～台南市・高雄市 7 泊 8 日の旅～」

八木沼 賢悟

2014 年 2 月 20 日～27 日にかけて「第 5 回台南市青少年訪問団」の団員として参加させて頂いた。この研修は 1 週間ととても短かったが、その短さを感じさせないほど、とても充実したものとなった。書きたいことはたくさんあるが、なんとかして 800 字程度におさめたい(笑)

この研修では、仙台市の友好都市となっている台南市の青少年との交流、台南市の古跡巡り、烏山頭ダム見学、仙台 PR イベント、高雄でのホームステイ、先住民族体験などを行った。この中でも、仙台 PR イベントやホームステイは私にとって本当に貴重な経験となった。仙台 PR イベントでは、仙台市の紹介、東日本大震災の概要、そして日本文化を現地の方に教えた。私は、こま、剣玉ブースを担当した。私は台湾語がわからなかったのも、どのように現地の方に教えたらいいか考えるのに苦労した。しかし現地のサポーターのみなさんのおかげで、子どもたちを中心に好評を得ることができた。また、現地の子もたちと仲良くなり、facebook を通して友達になった。日本文化を教えることを通して海外の人とのつながり



も生まれ、大変嬉しかった。そして、仙台 PR イベントからのホームステイ。場所は、台湾第二の都市である高雄市。私のホームステイの相手方は、翼くん。めっちゃ足長くて細い！(笑)彼のオートバイに乗り、高雄の風を感じてきた。蓮池湖、85 ビル、愛河の夜景。どれもこれも私にとってとても興味深く、高雄を満喫することができた。翼くんはとても日本語が上手で日本に興味を持ってくれていた。来年に日本に留学するそうで、また再開するのが楽しみである。将来再び台湾を訪れる機会があった時、

台南とともに高雄にも訪れたいと思う。今回の研修にホームステイが組み込まれていて本当によかった。

はじめは 1 週間この研修でやっていけるかととても不安であった。しかし個性あふれる他の団員や台湾のサポーターのおかげで台湾を満喫することができた。日本から踏み出して世界に飛び込み、海外の多様なスタイルや考え方を知ることが、これが国際交流の醍醐味ではないかと考えた。この研修をきっかけとして、これからも積極的に海外に目を向けていきたい。

たくさんの出会い！それってキセキ！

八巻 幸子

台湾の学生と交流してみたい、震災のことを多くの人に伝えたい・・・そんな思いからたった一人で今回参加させていただきました。最初は不安で仕方ありませんでしたが、この 8 日間は、19 年間の人生で一番充実した日々になったように思います。

振り返ってみて一番に思い浮かぶのは、この旅で出会った台湾の学生のみなさんです。まず、班のサポーターを務めてくれたはるみ。田んぼでの農作業や先住民パーティーなど、班行動の時以外でも、どこへ行くにも常に一緒に居ました。はるみはとても優しく面白くて、何度大笑いしたかわからないくらい、気付けば周りから「二人とも似てる！」と言われるくらい、たくさんの思い出を作ることができました。そしてホームステイ先で出会った 3 人の学生、仙台 PR イベントでサポートしてくれた学生のみなさんとも、とても貴重な時間を過ごすことができ、帰国後もそれぞれ連絡をとって交流を続けています。国境を越えた出会いに恵まれて本当に幸せです！

そして今回、震災支援の感謝を伝えることが目的ということで、事前にまとめた被災地からのメッセ

ージをビデオレターにして台南市の方々に贈呈することができました。被災地のみなさんが今思うこと、伝えたいことをPRイベントでの台南市の方々が集まる前でしっかりと手渡しました。震災を忘れないでほしいという一番の願いを直接届けることができて良かったです。

現地で初めて顔を合わせた2班のメンバーも、今ではとっても大事な仲間です。屋台、花園夜市・・・思い返せばどこへ行くにも食べて走って笑っての繰り返しで、挙げれば挙げるほどキリがないくらい思い出でいっぱいです。正直出発前はこんなに仲良くなれるとは思っていませんでした。最後のお別れ交流会でぐちゃぐちゃになるまでみんなと泣いたことは忘れません！



言葉では伝わらない感情

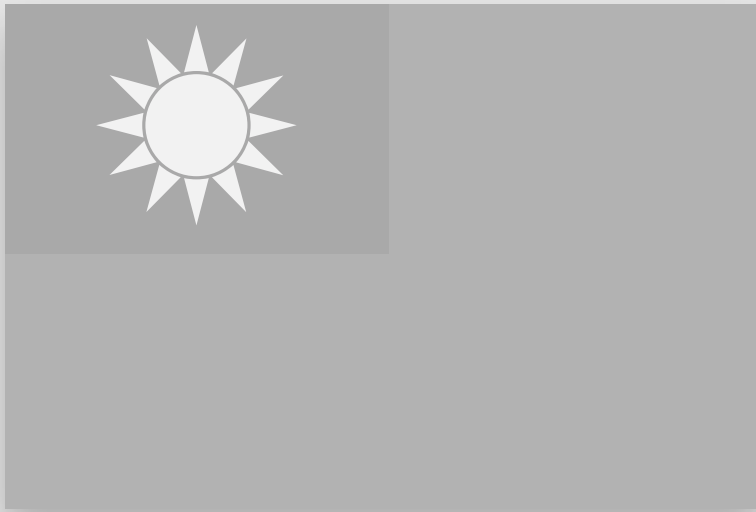
渡邊 加純



台南市青少年訪問団に参加して、すべての体験が素敵な思い出になりました。いろんな経験をさせていただいた中でも、仙台PRイベントは私の中でも特に印象深いものになりました。プロジェクトの中で唯一、日本の学生が主体となって活動し、また、台湾の人々に感謝を直接伝えられる場でもあったからです。仙台PRチームの浴衣の着付け担当として、運営の仕方など、わくわくしながら準備を行っていました。本番当日、台湾の学生に通訳してもらいながらの着付けでしたが、浴衣を着て喜んでくれている姿を見てうれしく思いました。日本の雰囲気伝えられたように感じたからです。また、子どもの着付けが全体的には多かったように思いますが、一番喜んでいたのは女性だったのではないかと思います。ほとんどの会話を台湾の学生にまかせっきりにしてしまいましたが、言葉は通じなくても心は通じることができるのだと感じることができました。

また、ホームステイでは初めての経験をたくさんさせていただきました。ブンブンの家にホームステイをしました。台湾式の鍋料理や、高雄の夜市に連れて行ってくれました。移動手段としてバイクにも乗せてもらい、かなり刺激を受けました。夜市では日本のお祭りとは違い、台湾の独特の雰囲気を感しました。小さな子どもも夜遅くまで遊んでおり、場所は違っても親の生活に影響されているのだなと思いました。また、私が日本人とわかると知っている日本語で話しかけてくれるなど、嬉しい気持ちになりました。ブンブンの家に戻り、私が日本から持ってきた折り紙でブンブンと妹さんと二種類の鶴を作りました。とても興味を示してくれて楽しく折り紙で遊ぶことができました。また、たくさんの台湾のお菓子を味見させてくれたり、寝る前に食べるのよ、と屋台で買ってきてくれた日本というおつまみのようなものもいただきました。ホームステイを経験して、台湾の人々の日常生活を身を持って感じるすることができました。

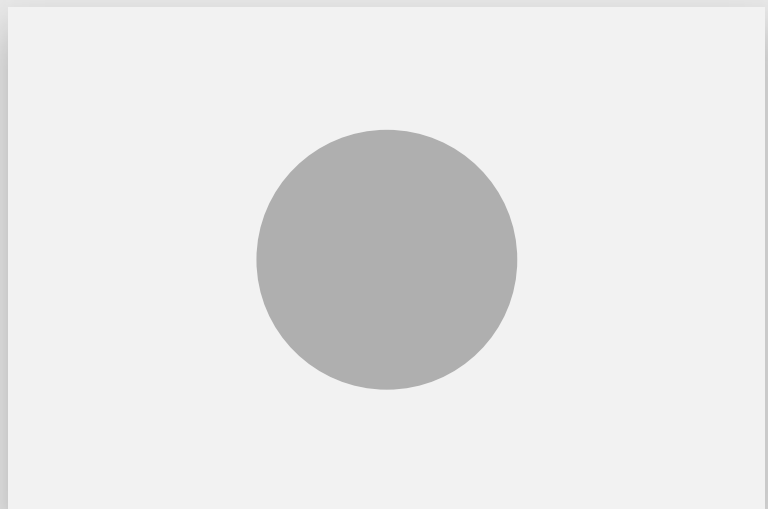
仙台PRイベントでもホームステイでも私の周りには日本人よりも台湾人のほうが多くいました。しかし困るような出来事は起きませんでした。それはサポーターの通訳や、おおらかで優しくて相手を思いやるという私が感じた台湾人の性格のおかげではないかと思います。他にも素敵な思い出をたくさん作ることができました。この一週間は今までの私にとって大きな刺激となりました。今回の経験の中で感じたこと、想いなど忘れずにいたいと思います。



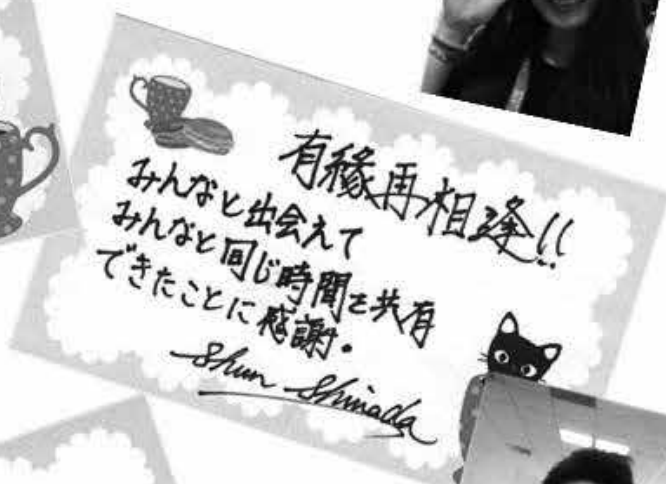
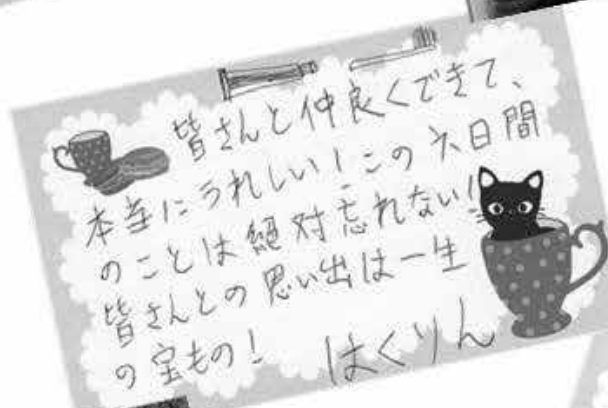
台南市青少年訪問団 報告書



台湾からのメッセージ







同行者より

素敵な出会いに感謝！

仙台の青少年を台湾に招待する「仙台に愛を送ろう！希望のふるさと仙台」計画の提案が台南市からあったのは、東日本大震災から約1か月後の2011年4月。仙台国際交流協会では、まだ外国人被災者支援の真ただ中で、通常事業が再開できていない状態でした。こんな状況の中で、300人もの学生を募集して台湾を訪問することができるだろうか、3年間も継続できるだろうかと不安に感じたことが思い出されます。しかし、それから既に5回の訪問団が台南市を訪れ、参加した学生のみなさんは、文化や言葉の壁を越えた熱い交流を続けています。台湾を訪れて「自分」を再発見した人、生涯の友を得た人、新しい夢を見つけて頑張っている人など、多くの素敵な若者に会うことができました。今回の事業が、次世代を担う人材を育てる息の長い支援であることに改めて感謝の気持ちで一杯です。

私自身も台湾は初めて行く土地でしたが、景色を見ても、人と話しても、異国に来たという感じが全くありませんでした。それは恐らく、奇美グループと台湾人留学生サポーターのみなさんが長期にわたって綿密な準備をしてくださったお陰だと思います。滞在中も私達が休んでいる間や夜遅い時間まで、打合せや準備をしてくださいました。その仕事ぶりに本当に頭が下がります。最後になりましたが、台湾でお会いした多くの方々、そして、出発にあたり研修や準備にご協力いただいた皆様に改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。



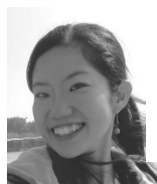
(公財) 仙台国際交流協会
総務企画課課長補佐兼企画係係長 須藤 伸子

2012年の2月に始まったこの訪問団も、早いもので今回5回目。全9回のうち、折り返し地点を迎えました。参加を希望する学生は経験者からの口コミで広まり、毎回たくさんの応募の中から泣く泣く選考をして派遣しています。台湾の魅力を120%活かしたこのプログラムは、参加した学生にとって一生忘れられない体験となっています。私自身この訪問団に同行するのは3回目でしたが、同じ場所を訪れても、同じプログラムを行っても、毎回違う想いで帰国します。新しいもの、異文化に対する学生の素直な反応を間近でみたり、訪問の度にお世話になる方々と再会したりすることが、いつも楽しみです。

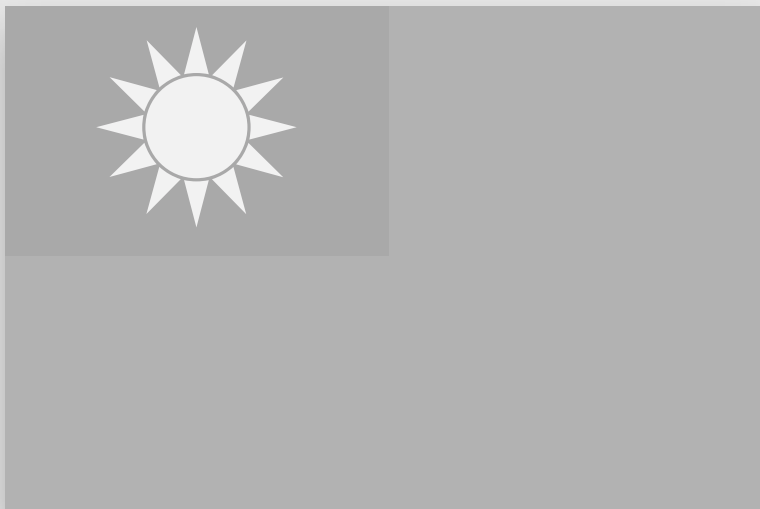
現地2日目に樹谷生活科学館の前の広場で、日本文化と震災復興の様子を伝えるイベントを行いました。たくさんの方にご来場いただき、温かい言葉をかけていただいたことは忘れられません。元々この訪問団の趣旨の一つに、震災時に受けた支援に対する感謝を伝える、というものがありますので、このような機会を設けていただいたことに感謝いたします。

第5回は良い意味でまじめな学生が多く、寝る間を惜しんでも交流したい、できることは何でも挑戦、吸収したいという気持ちが全面に伝わってくるメンバーばかりで、何事も一生懸命やっていただきました。5期メンバーのみなさん、台湾サポーターのみなさん本当にありがとう！

毎回この訪問団にご尽力いただき、仙台の青少年に素晴らしいチャンスを提供してくださる奇美グループのみなさんをはじめ、お世話になった方々に心より感謝いたします。



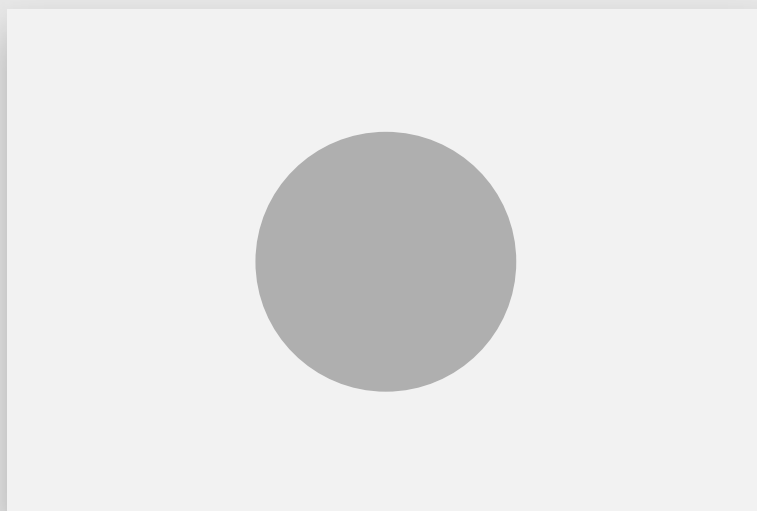
(公財) 仙台国際交流協会
総務企画課企画係 川合 朋子



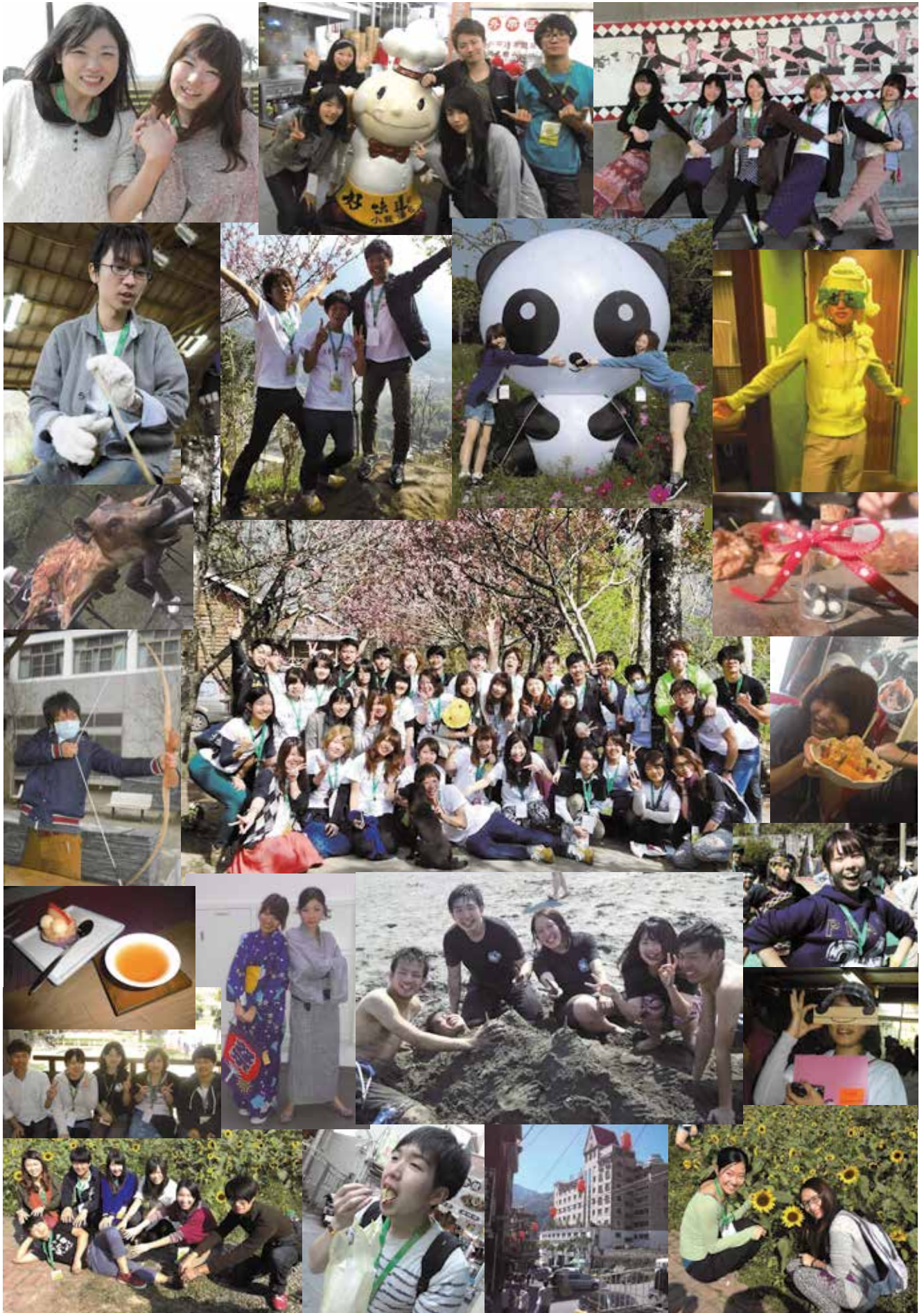
台南市青少年訪問団 報告書



フォトギャラリー











編集後記 報告書チーム頑張りました！

報告書大変でした。台湾に行った皆との思い出が濃すぎて、決まったスペースにまとまらない！！あれも書きたい、これも知ってほしい。考えながらFacebookの写真を見たりするから更に進まない。(´ω`)本当に充実した日々を送ることが出来ました。サポートして下さった皆様本当にありがとうございました。この繋がりをこれからも大切にしていきます！ (岡田 紗織)



編集をしていると、少しの写真を見ているだけでも大量の思い出がこみ上げてきました。それだけ、思い出もスケジュールも(笑)詰まって充実した8日間だったと思います。台湾に戻りたくなったらまずこの報告書開いて落ち着こうと思います。関わって下さった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。(岩原 春香)

報告書と感謝カードの班は皆がしっかりしていてつい頼ってしまいました。報告書を作成していると、台湾での楽しかったことやサポーターとの思い出やホームステイの事などの思い出が蘇ってきて懐かしく感じながら作成していました。この報告書を見て台湾で経験したことを思い出すことができたらいいなと思います。(古市 悠夏)



報告書を書きながら台南のことを思い出し、貴重な経験をさせていただいたことを改めて実感しました。素敵な方々との出会いや充実した濃い日々は私の宝物です。私たちは台湾が大好きです。お世話になった方々に心から感謝します。台湾での一週間で体験したことや感じたことが一人でも多くの方に伝わってくれば嬉しいです。(塙 綾佳)

台南訪問団の仲間たちや台湾でのサポーターの方々などの協力により、無事に報告書の作成が終わりました。報告書を作成しながら、台湾での活動やサポーターとの思い出が蘇ってきました。この報告書を見ながら思い出にひたったり、行ったことのない方は、この報告書で雰囲気を感じていただければ嬉しいです。ありがとうございました。(鴻野 美和子)



Special thanks♥

台南市青少年訪問団 5 期メンバー、仙台国際交流協会、奇美の方々、台湾のサポーター、ホストファミリー、ブヌン族の方々、その他この訪問で出会えたすべてのの方々

ありがとう ♥ 謝謝



第5回台南市青少年訪問団 Tシャツデザイン

宮城大学1年 岡田 紗織

表は胸元に仙台の代名詞、伊達政宗と雀踊りのシルエット。背中では学校のクラスTシャツっぽく、第5回訪問団メンバーの名前を入れて、仲の良さを表しました。色は伊達に白と黒でシンプルに。



送愛到仙台



第5回台南市青少年訪問団 報告書

編集・発行 公益財団法人仙台国際交流協会

〒980-0804 仙台市青葉区大町2丁目2-10 仙台青葉ウイングビルA棟11階

TEL:022-265-2480 FAX: 022-261-0611

E-mail: plan2@sira.or.jp HP: <http://www.sira.or.jp>
